

2021 vol.64

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

P R E S S

特集 50年を経て 文化創生のまちへ 多摩ニュータウンの「今」



Special
Interview

自分の世界を変えたダンス。
踊っていると
生きてることを実感します

ダンサー・振付家

TAKAHIROさん



01 暮らしのカケラ⑩ 「あたらしい町の旅」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす⑦

TAKAHIROさん ダンサー・振付家
自分の世界を変えたダンス。
踊っていると生きてることを実感します



07 特集

50年を経て文化創生のまちへ

多摩ニュータウンの「今」

- 09 団地に灯るランタンに誘われて2500人を超す人々がやってきた 貝取・豊ヶ丘団地
11 団地の商店街をアートで彩り多世代をつなぐワークショップを開催 永山団地
13 ニュータウンから世界に発信！市民がつくる市民のオンライン文化祭 多摩市
15 ミクストコミュニティを目指して未来の「ニュータウン」づくりが始まっている
17 多摩ニュータウンTOPICS
地域密着で団地の暮らしを支える「J Smile FOODS MARKET」
ここに来れば人とつながれる 地域に開かれたみんなの居場所「とよよん」
“便利”で“楽しい”移動販売車がやって来た！
無印良品の家具でコーディネート提案



21 団地最前線② 環境を守り、居住性をアップ「千里グリーンヒルズ」が誕生
千里ニュータウン(大阪府吹田市・豊中市)



23 URのまちづくり最前線⑩
URの技術とノウハウを西シドニーの新しいまちづくりに生かす
西シドニー新空港周辺開発計画

25 楽しい団地 集会所が新たなコミュニティ拠点に 洋光台団地(横浜市磯子区)

27 URのまち あのみち・このまち・歩いてみよう！ その④ ならまち周辺(奈良県奈良市)

29 復興の「今」を見に来て！④
復興の先駆けとなるなりわいの拠点が始動(福島県双葉町)

31 祈りの公園が完成 まちに回遊性が生まれ にぎわい創出に期待(宮城県南三陸町)

33 栗原心平のオトコめし⑤ 根菜かき揚げのしょうがそば



34 素敵に飾るインテリアグリーン⑤ 貝賀あゆみ

日差しに合わせて移動できるプランタースタンド

34 防災、待ったなし！⑥ 高荷智也 正しく使って命を守る！「緊急地震速報」のキホン

35 UR TOPICS

37 プレゼント付きクロスワードパズル

38 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.64 2021年1月31日発行

発行 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
Tel 045-650-0882 Fax 045-650-0889

制作 新潮社、編集室りっか
デザイン 太田デザイン事務所
印刷 大日本印刷
※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。
※本文中の肩書きは取材時のものです。
※掲載した情報は2021年1月15日時点のものです。

表紙の世界

子どもたちが大きな面に
たっぷりの絵具で、
体をめいっぱい使って
描いている
お絵描きイベント。
大人はその横顔を見て
楽しくなります。

イラストレーション
小林マキ



角田光代

暮らしのカケラ

あたらしい町の旅

私

が生まれ育ったのは横浜市の隅っこだが、二十歳のときに都内に引っ越して、今は実家もないので、横浜方面に行くことはめったにない。ごくまれに、仕事があつて横浜に赴くが、そのたびに町は変わり続けている。横浜駅周辺も、観光スポットでもある関内地区も。

先だって、仕事があつて関内方面にいった。早めに着いたので、散歩がてら町を歩いてみたが、変わりすぎていて、まるで始めて訪れる旅先の町みたいだ。歩いていると開港記念会館、神奈川県庁、横浜税関とようやく見知ったビルがあらわれて、ジャック、キング、クイーンだとそれぞれ建物のあだ名が浮かぶ。

け

れどもそんなふうに見知った光景のほうが少ない、やっぱり全体的には知らない町だ。おしゃれなカフェやレストランや雑貨屋が並び、紅葉はじめた街路樹の下を歩いていくと海に出る。歩道にある道案内の看板を見ると、看板のなかには見知った単語がたくさんある。中華街、横浜スタジアム、マリントワー、文化会館。知っている知ってる、と思うが、でもその地点からどちらにいけばその「知っている場所」があるのかも、わからない。なつかしさは看板の文字にしか、感じない。やっぱりここはもう、私には未知の町、旅先だ。

私は今住んでいる町に引っ越して二十七年になる。町内で引っ越しをくり返し、三年ほど隣の町に住んだこともあるが、実家にいたときより長い年数、暮らしていることになる。もちろん町の光景は変わり続けているけれど、ちいさな町だから、おおきな変化はない。タワーマンションができたり巨大施設ができたりすることは少ない。せいぜい、昔ながらのお店がなくなつてビルになつたり、銭湯がなくなつたり、飲食店の入れ替えがあつたり、そのくらいだ。昔ながらの商店街も飲み屋街も健在だ。

で

もそれは、ずっと暮らしているから「変わらない」と思っているだけなのだろうか、横浜から帰ってきてふと思う。鏡を毎日見ていると、自分が老けたことにも、太つたり痩せたりしたことにも、気づかない。しょっちゅう会う友だちも然り。二十年ぶり、三十年ぶりに会う友だちの場合は、その変貌ぶりに驚いて、「もしや私もこ

そ

のくらい老けたのか」と、その様子にあらためて自分を映し見たりする。んなふうには、私にとつてまったく未知になつた横浜の町も、ずっと暮らし続けていたら、あんまり変わっていないように思えるのだろうか。
ともあれ、思うままに旅のできない今、見知っているはずの町が、まったくの未知の場所に思えるのは、ちよつとわくわくすることでもあつた。
たつた数十分の散歩であつても。

かくた・みつよ

作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文芸賞を受賞しデビュー。「対岸の彼女」(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は「銀の夜」(光文社)。



photo・T.Tetsuya



ニューヨークのアポロシアターのTVコンテストで史上初の9大会連続優勝を果たし、マドンナのワールドツアーの専属ダンサーも務めたTAKAHIROさん。近年は櫻坂46や日向坂46などの振付けでも注目を集めています。自分に自信がもてない内気な少年が、ダンスに出会うことで大きく変わった――。今も情熱が冷めないダンスの魅力をつっぷり語ってもらいました。

自分の世界を変えたダンス。

踊っていると

生きてることを実感します

TAKAHIRO

さん ダンサー・振付家

ダンスを始めたのは18歳のとき。最初のきっかけは何だったのでしょうか？

もともと僕は、部屋の隅でひとりラジオドラマを聴いているような目立たない少年でした。足も速くないし、水泳も得意ではなく、コンプレックスもありました。そんな少年が18歳のとき、テレビで風見しんごさんの「涙のtake a chance」を見て、大きな衝撃を受けたんです。体ひとつで回ったり、バク転したり、まるで忍者や魔法使いのように見えたくて。

試しにテレビの前でターンしてみたら、全然回れない。もし僕が彼みたい背中ぐるぐる



回れたら、きっと世界が変わるんじゃないか。そう思って、大学でダンスサークルに入り、ひたすらその技だけを練習しました。背中には水ぶくれができました。怪我で歩けなくなったりもしましたが、1年ほどたったある日、1周クルッと回れたんです。それはもう、すさまじい感

動でした。今まで何をやってもダメだった自分が、やったらできた。これは何だってできるのではないかって。遅れてきた自我の目覚めのような感じでした。そうしてダンスに夢中になっていくうちに

就職期を迎えたのですが、人生で初めて没頭できたダンスを捨てるのができなかったんです。ダメもとで、世界一の大会に1回だけ挑戦しよう。本当に好きになったものだからこそ、おじいさんになったときに人に笑って話せるような思い出にしたいと思っただけです。

それでアメリカに単身で渡り、マイケルジャクソンやステイビーワンダーを生んだ「アポロシアター」のコンテスト番組「アマチュアナイト」に出場。2006年に史上最高記録となる9大会連続優勝を達成し、マドンナのワールドツアー専属ダンサーに抜擢されるなど、大きな飛躍をとげました。

その頃は、人生のひとつの波に乗ったというか、こうなったらいいなと想像した以上のことが次々と実現した時期でした。最初の頃は、アジア人だからと馬鹿にされたり、街でポコポコに殴られて救急車で運ばれたり、マドンナのオーディションでは

厳しい競争でホテルで泣いたり、悔しい思いもたくさんしました。アポロシアターで優勝したときは、自分の実力よりも得てしまった看板のほうが大きいことに気づき、プレッシャーで逃げ出したくなりました。でも、舞台裏で僕に負けたダンサーから「頑張れよ」と手を握られて。いつか彼らが僕と戦ったことを自慢してくれるようなダンサーになりたい、というのが目標になったんです。

それから5、6年、自分が一番ノッていた頃、東日本大震災が起きました。今、日本に帰らないと、一番いいときの自分を家族やいろいろな人に見せられなくなると思って帰国し、今につながっています。

最近では、ご自身のパフォーマンスだけでなく、櫻坂46やその前身の櫻坂46などの振付けで活躍しています。



ダンスのレッスンをするTAKAHIROさん。

櫻坂46から改名し2020年に新たなスタートを切った櫻坂46の1stシングル[sakurazaka46_Nobody's fault]の振付けも担当した。



©Seed & Flower LLC.

櫻坂46では、1stシングル「Nobody's fault」の振付けを担当しました。大人になる前の多感な少女だった櫻坂46からひとつ成長した女性の姿を描いた

曲が多く、そこから自然に浮かび上がってきた形を振付けとして表現しました。

振付けに際しては、歌とそれを表現するメンバーのパーソナルを意識し、そして彼女たちが伝えたいことを、どう色づけすれば見る人に伝わるかを考えます。たとえば「雨」という歌詞があったとします。それは単に降る雨ではなく、雨の香りや色、あるいは心情が込められているかもしれない。そうした目に見えない感情や感覚を可視化して、見る人、聞いている人に伝えるのが振付けだと考えています。

それだけに、同じ曲でもセンターの子が変われば、その子を持っているバックボーン、曲への印象、メンバード織りなすストーリーなども加味して振付けを変えますし、またどのようなシチュエーションで踊るかによって全く違うものに作り変えることもある。振付けは、まさに生き物です。

現在、中学校ではダンスが必修になっています。教育の場でのダンスの意味とは何でしょうか？

ダンスは、書店ではスポーツ

と芸術の本棚に並んでいる、2つの側面を持つカルチャーです。ダンスをすると、さまざまな能力が磨かれます。体を動かすスポーツ的センス、自分で考え、発想力やオリジナリティを磨く芸術的センス、リズムをとる音楽的センス、相手や隣の人と合わせる協調性やコミュニケーション能力、それに社会的スキルも磨かれる。ダンスは教育として、非常に有意義だと思います。ダンスに対して苦手意識をもっている人が、上達するコツはありますか？

初めは誰でもヘタなんです。僕だって最初は1周ターンして転んだんですから。最初から自分の理想を高く持ちすぎていると、届かないと思ってしまう。でも、小さな階段でも1段ずつ上がり続けていくことが大事です。多くの人は途中で止めてしまいがちから、続けていけば、いつか追い抜くことができる。人と比べず、自分の階段を積み重ねていくことが大切だと思います。

そして、一番シンプルなダンスは、「歩くこと」。体が覚えて



TAKAHIRO

ダンサー、振付家。1981年、東京生まれ。18歳でダンスを始め、23歳で渡米。[NY APOLLO Amateur Night TV Show]に出場。史上最高記録となる9大会連続優勝を達成し、米国プロデビュー。2007年Newsweek「世界が尊敬する日本人100」に選ばれる。2009年マドンナワールドツアーに参加。大阪世界陸上開会式などのイベントをはじめ、映画、ミュージカル、また櫻坂46、矢沢永吉などさまざまなアーティストの振付けを担当。振付けを担当した日向坂46の「青春の馬」で2020年「MTVビデオ・ミュージック・アワード・ジャパン」の最優秀振付け賞を受賞。ダンス教育にも力を注いでいる。

これまでダンスを続けてきたモチベーションは何でしょうか？

ダンスを始めて20年。ずっと続けてきたのは、ダンスが好き、という気持ちがあるから。ダンスを踊っていると、生きていることを実感します。これまで、ダンスから振付け、舞台演出、教育と、自分がウキウキすることを探し続けてきました。これからも、時間とともに変化していく自分の体と向き合いながら新しいダンスという表現を見つめるために、ずっと冒険を続けていきたいです。

いる最初のリズムは心臓の鼓動、呼吸、そこから立ち上がって歩行、というこの3つです。その誰もが持っているギフトから、ワクワク感、躍動感が生まれるのです。年齢を問わず、ぜひ好きな曲を聴きながら、好きな街を歩くことから始めてほしいですね。

これからやってみたいこと、夢はありますか？

使命的な夢としては、若いダンサーが未来に活躍できる場所があるように、日本でダンサーの可能性を広げていきたいです。

歌手を語るように、ダンサーの名前が語られる世の中になるよう、僕にできることをやっていきたいと思っています。個人的には、今までの経験を活かして、世界の人を驚かせるような作品を作りたい。そのときのために、プロデューサーや振付け、舞台演出に作詞や作曲も含め、これからも視野を広げていきたいです。

また、いつか自分の憧れの場所に住みたい、というのも夢のひとつです。僕の大切な記憶には場所が必ず付随しています。

亡くなった父と一緒に行った海、マドンナのオーディションで一番ドキドキしたスタジオの風景、そして小学校6年生まで暮らしたマンションの部屋……。今は別の人が住んでいます。いつか住みたくて、売りに出ないかと時々ネットで見ています。大切な記憶は、どれも場所に保管されています。どんな場所で育った人もきっとそうだと思うのです。建物は変わっても、樹木とかベンチとか、記憶のよすがとなるものが何かしら残っているといいですね。

「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマートフォンからTAKAHIROさんのインタビュー動画がご覧いただけます。(2021年4月末まで)



WEB UR PRESS

特集

50年を経て文化創生のまちへ

日本が高度経済成長を続けた昭和30～40年代、
深刻な都市の住宅不足を解消するためにつくられたのが「ニュータウン」だ。

当時の日本住宅公団（現在のUR都市機構）他によって、
大阪では千里ニュータウン、愛知では高蔵寺ニュータウン、
そして東京で多摩ニュータウンの開発が始まった。

多摩ニュータウンのまちびらきは昭和46年（1971年）。
高度成長を支える働き盛りの若いファミリーがいつせいに入居し、
活気を帯びた「新しいまち」が生まれた。

それから50年。時代は昭和から平成、そして令和に移り、まちの様相も大きく変わるなか、

ここ数年、多摩ニュータウンに再び若い世代の目が注がれている。

都会の利便性と郊外の環境の良さを併せ持つ多摩ニュータウンの魅力が、

若きクリエイターやアーティストたちに「再発見」されているのだ。

多摩ニュータウンではこの先の時代を見据えた新しい動きが始まっている。

多摩ニュータウンの「今」

昨年10月、多摩ニュータウンの貝取団地・豊ヶ丘団地をまたいで行われた「ランタンフェスティバル2020」。2,500人を超す人々が集まった。

青木 登=撮影



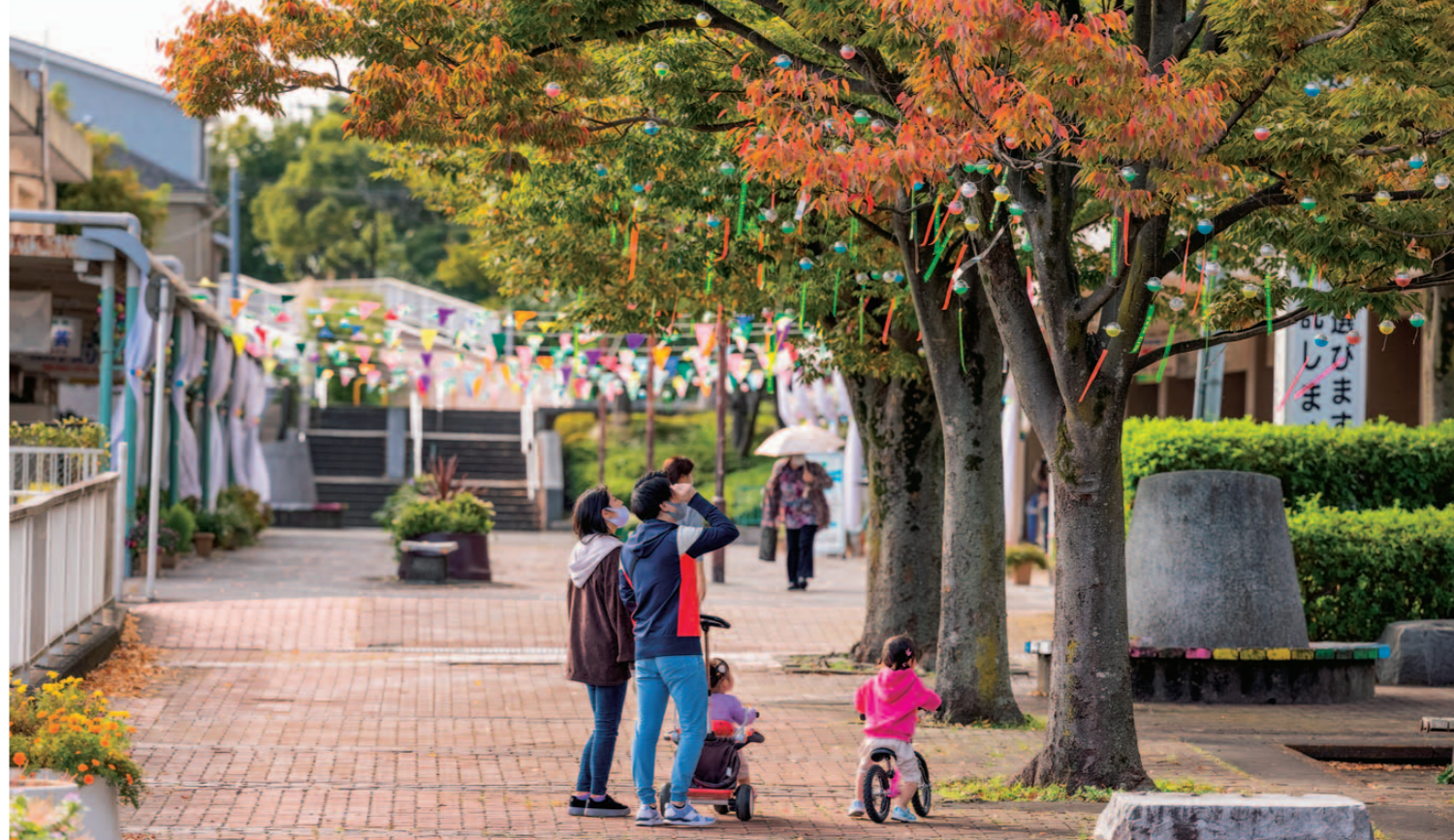
ニューマチヅクリシャを立ち上げた建築家の横溝さん。団地の空き店舗を利用したギャラリーにて。



右/アート&デザインユニット、ミックレミックのお二人。左が吉田実香さん、右が村田真理さん。下/お二人の指導でランタン作りのワークショップを開催。大勢の子どもたちが参加した。



団地商店街に飾られたランタンには、各々の思い出のあるモノが入っている。



団地に灯るランタンに誘われて 2500人を超す人々がやってきた

団地遊歩道の並木には手作りの小さなランタンが飾られた。ランタンには住民の思い出を記した短冊がぶら下げられている。

多摩ニュータウン
貝取・豊ヶ丘団地
東京都多摩市

いま、多摩ニュータウンでは、アーティストやクリエイターを巻き込んださまざまな試みがあちこちで生まれている。昨年10月12～18日に開催された「ランタンフェスティバル2020」もその一つ。ゆるやかなネットワークでつながる若い世代が知恵を出し合い、多様な世代を引き付ける参加型イベントとして盛り上がった。

2つの団地をつないで 交流を促進

八角形の印象的な建物の軒先に吊るされた無数のランタンが、日暮れと同時に美しさを増す。昨年10月17日の土曜日、「ランタンフェスティバル2020」の会場には、大勢の人が集まっていた。

地域の魅力再発見を目的に開催されたこのイベントは、2019年に続いて2回目の開催。飲食は屋外に限定し、建物の中には人を入れないなど感染予防対策が実施されるなか、団地の住民を中心に地域の人々が久しぶりのイベントを楽しんだ。主催者の一つ、URのグループ会社、日本総合住生活（JS）の担当者、鋤柄さやかは言う。

「第1回の反響が予想以上に大きく、地域の皆さんの期待を感じていたので、2020年は地域との関わりを深めたいと考えました。そこでニューマチヅクリシャさんに声



JSの鋤柄。開催の推進役として、人と人、地域をつなげる役割を果たした。

と皆さん興味津々で協力してくださいました。このランタンには皆さんの気持ちがこもっているんです」とミックレミックの吉田実香さん。

イベントに関わって地域の人のやさしさに触れたと語る吉田さんも、多摩ニュータウンの住人だ。

在住クリエイターが 団地に新しい風を呼びこ

あまり知られていないが、多摩ニュータウンには、アーティストやクリエイターが多く住んでいると横溝さんは言う。

「多摩ニュータウンには、新しさを受け入れる柔軟さと懐の深さがあると思います。だから、都心を離れて活動したいアーティストやクリエイターが暮らしやすいんじゃないかな」

2020年のランタンフェスティバルはSNSでも積極的に発信され、広く注目を集めた。その背

J Smile多摩八角堂に吊るされたベトナム製のランタンは、ベトナム・ランタンまつりinなめりかわ実行委員会から借りたもの。大勢の人がスマホのシャッターを押した。



をかけたんです」

「ニューマチヅクリシャ」とは、一級建築士事務所スタジオメガネの横溝 博さんが立ち上げたまちづくり組織だ。ニューマチヅクリシャが主催者として加わったことで、ランタンフェスティバルは、住民を巻き込んでパワーアップすることとなった。

横溝さんは多摩ニュータウンの団地商店街に事務所を構え、商店街の活性化を支援。これまでもニュータウン内のさまざまなイベントに関わってきた。

「多摩ニュータウンは、段階的な開発の特性から団地間の往来があまりない」と言う横溝さん。だが



URの小西。「URは、団地の活性化を支えていきます」と力強く語る。

景には豊かな緑と都心からの程よい距離、ゆったりと暮らせる環境に惹かれてニュータウンに移り住んでいるアーティストやクリエイターの存在があったのだ。

住民を巻き込みながらゆるやかにつながり、地域に根ざした活動を開始したクリエイターたち。この新しい流れについて、多摩ニュータウンの再生に取り組むURの小西智剛は言う。

「恵まれた周辺環境に加えて、新しいパワーが根付き始めていることも、多摩ニュータウンの魅力と捉えています。都心に毎日通勤する必要がなくなりつつある時代に、多摩ニュータウンはますます注目されるのではないのでしょうか」

昭和の時代に比べて活気がなくなってきたと言われる多摩ニュータウンだが、住民一人ひとりがゆるやかにつながり楽しく暮らすという新しい時代の空気が着実に生まれている。

カプセルは、ガチャガチャを設置している大型スパーや近所の商店に頼んで、捨てられているものを分けてもらったりした。ランタンにつける短冊には、郵便局や児童館を回って人々に願い事を書いてもらった。

メイン会場に飾られたベトナム製のランタンとは別に、ガチャガチャ（カプセル玩具）のカプセル約2000個で作ったランタンが、商店街アーケードや街路樹に飾られた。これは、横溝さんがイベントへの参加を呼びかけた女性2人のアート&デザインユニット、「ミックレミック」が中心となり、団地住民や近隣大学の学生ボランティアと共に制作し、飾りつけたものだ。

ランタンに込められた 住民の夢や希望

からこそ団地同士をつなぐイベントにしたいと、ランタンフェスティバルは隣接する貝取と豊ヶ丘という2つの団地をまたいで行うことにした。イベント期間中、団地をつなぐ遊歩道には、そぞろ歩く人々の姿が普段以上に見られた。



集中してお絵かきする子どもたち。色使いや造形など、子どもたちの個性がはつきり現れるのもおもしろい。



上/永山団地の1階に位置する商店街「永山団地名店会」の長いアーケードを利用したユニークなワークショップに、子どもたちも大喜び。



右/参加時の消毒とマスク着用、対面できなく横並び、道具は共用しないなどコロナ対策も万全。



多摩ニュータウン
永山団地
東京都多摩市

団地の商店街をアートで彩り 多世代をつなぐワークショップを開催

長さ100メートルの布に子どもたちのカラフルな絵が躍る。永山団地の商店街でくり広げられたワークショップでは、お絵かきを楽しむ子どもと、傍らを通りながら楽しげに眺める人。アートをキーワードに、ミクストコミュニティの輪が広がった。

お絵かきに使ったのは、発色のよいアクリル絵の具。子ども一人に5色1セットで、色を混ぜるのも自由。



商店街のアーケードが アート空間に大変身!

「手でべちゃべちゃに塗っちゃった!」「おだんごをいっぱい描いたよ。見て!」。真つ青に晴れ渡った秋空に、子どもたちの元気な声が響き渡る。昨年10月31日の土曜日。多摩ニュータウン永山団地の商店街で開かれたワークショップ「ニューショーテンガイプレイスタデイズ」での一コマだ。商店街の長いアーケードの柱に長さ100メートルの真っ白い布を張り、5色の絵の具で自由にお絵かき。さらに、布の一部は持ち

楽しさからつながる ミクストコミュニティ

多摩ニュータウンのなかでもっとも早く入居が開始され、現在も3000戸以上と最大規模を誇る永山団地。敷地内には大きく育った木々に彩られた歩道が巡り、保育園や小学校、中学校をはじめ、地域医療福祉拠点化団地として福祉面も充実するなど、多世代が暮らしやすい環境が整っている。コミュニティ活動も活発で、盛大な夏祭りや団地内のスポットを歩



「これからも、いろいろおもしろいことをやっていきたい」と話すニューマツクリシャの横溝さん(右)と、コネルテの吉原さん(左)。

いて回るスタンプリナーなど、数多く行われている。今回のイベントは、ランタンフェスティバルの企画にも携わったまちづくりプロジェクト「ニューマツクリシャ」と、子どもを主な対象としたワークショップ「コネルテ」のコラボレーションで実現した。「コネルテ」の吉原佳世さんは「5人いるメンバー中、4人が塗装職人という仲間です。そのうちの4人が府中市、多摩市に住んでいることもあり、この地域でも子どもたちのワークショップを開いています。ニューマツクリシャの横溝さんは多摩で面白いことをやっているとずっと気になっていたので、今回初めてお声がけいだいて、すごくうれしい!」と声を弾ませる。

「多摩には第一線で活躍するアーティストがたくさん住んでいて、イベントがあると協力をしてくれる土壌があるんです。子どもたちがアートに触れる機会が持てるし、見る人の感性も刺激される。いい連鎖ができて、人のつながりも生まれていきます」と話す。子どもたちが絵を描いた布は、テキスタイルとしてエコバッグなどの雑貨に有効活用する予定。今後はイベントの規模を徐々に拡大し、サステナブルな活動にしていきたいと話す。

多摩ニュータウンは、2人にとって活動の場だけではない。吉原さんは永山地区に居住。横溝さんも妻が多摩ニュータウン出身という縁があり、団地店舗に事務所を構えている。それだけに、この地には特に思い入れが強いという。「都会に目が行きがちだけど、ちよつと電車に乗れば、こんな自然豊かでゆったりした場所がある。コロナでの自粛中も、自然のなかをお散歩できて、すごくよかった」

横溝 惇さんは、商店会から活性化のためのイベントができないかと相談を受け、目の前に広い公園がある立地を活かして、子どものワークショップ「えのぐであそぼう」を手がけているコネルテと

「子どもたちが絵を描いた布は、テキスタイルとしてエコバッグなどの雑貨に有効活用する予定。今後はイベントの規模を徐々に拡大し、サステナブルな活動にしていきたいと話す。」

「子どもたちがお絵かきする様子に、通りがかつた年配の女性は「帰ってくるのときにできているのが楽しい」と顔をほころばせ、1年前に団地に越してきたという男性は「子どもたちを元気づけるのはいいこと」とポケットの小銭を寄付する光景も。URが目指すミクストコミュニティは、自然な形でこの地に根づくようとしている。

と吉原さんはその魅力を話す。所沢のニュータウンで生まれ育つたという横溝さんは「肩肘張ってコミュニティをつくらうというより、ここで遊びたい、楽しみたいという感覚です。そんな僕らの提案を、商店会さんもURさんも歓迎してくれて、実現できるところが面白い。今後は空き店舗やアーケード、公園などにも目を向け、地域の人たちと話し合いながらニュータウン全体のことも考えていけたら」と期待を込める。



右/多摩市内10カ所の児童館で、子どもたちがドミノをつくり、いっせいに倒す映像を撮影。この日は連光寺児童館で瀧口さんとスタッフがその様子を映像に収めた。これもオンライン文化祭のコンテンツのひとつ。上/文化祭当日、各児童館のドミノがつながり、次々に倒れていく映像が流れると、最後に多摩センター駅前のクリスマスツリーがリアルに点灯。いっせいにクリスマスイルミネーションが輝きだし、大成功だった。



多摩市

ニュータウンから世界に発信！ 市民がつくる市民のオンライン文化祭

多摩センターの会場では、落合中学吹奏楽部のメンバーと、「ザ・なつやすみバンド」のコラボが実現、生配信された。中学生たちは心から演奏を楽しんでいた。

昨年11月7日、多摩ニュータウンのある多摩市で行われた「多摩市ONLINE文化祭」。市民のさまざまなパフォーマンスをオンラインで配信する新しいかたちの市民のイベントは、世代間をつなぐ新たなコミュニケーションツールになる予感を秘めていた。

市民たちの発表の場を オンラインで実現

スタートは11月7日の昼12時。YouTubeの3つのチャンネルで、多摩市民が繰り広げるオンライン文化祭の様子が次々に配信された。中学校の吹奏楽部が演奏し、小学生の太鼓や合唱も登場。大学生が新体操を披露すれば、多摩市文化団体連合も参加するという具合に、切れ目なく44ものプログラムが続いた。参加したのは50団体超、のべ1000人以上、再生回数は2万2000を数えた。

「実際に視聴された人はその数倍はいらしたと思うので、まず成功だと思えます」と多摩市企画政策部の西村信哉さんは安堵の表情を見せた。

もともと市民活動が活発な多摩市。だが、昨年は新型コロナウィルスの影響で市民参加のイベントが次々に中止され、学校の行事も



「今年の市制50周年では、また新たなことに挑戦したい」と意欲を見せる多摩市の西村さん。



「オンライン文化祭だけで終わらせたくない、という市民の声をたくさんいただき、これからが楽しみ」と多摩市の永井さん。

中止を余儀なくされた。「コロナ禍の新しい日常に対応した、新しい市民交流の場、市民の発表の場がつかれないか。こうした市民の声があり、クリエイターの瀧口さんや柏井さんに相談して、オンライン文化祭につながりました」

多摩市企画政策部の永井陽介さんが説明する。

今年（2021年）多摩ニュータウンのまちびらきとともに市制50年を迎える多摩市では、50周年に向けた市民実行委員会を立ち上げており、そのメンバーの1人がCMクリエイターの瀧口寿彦さんだ。瀧口さんは多摩ニュータウン生まれ。18歳までここに住み、再び5年前に戻ってきた。

「戻ってきて感じたのは、ここは全く変わってないということ。古くからの歴史や伝統の少ない新しいまちで、まるで色が塗られていない真っ白なキャンパスなんです。



「高齢者にもチャレンジしたい人は多い。これからは高齢者と若い人たちがどう融合させるかがカギ」と話す瀧口さん。



柏井さんは、自分が子育てする年齢になり、団地内を走り回っていた子どもの頃を思い出し、あらためて団地のよさを実感したという。

「近所の方が差し入れてくれた茶菓子をつまみながら、高齢者や子どもたちと一緒にオンライン文化祭を見る。リアルとウェブが融合した、すごくいい時間でした」

多摩ニュータウンから 文化が生まれる

一昨年まで多摩市で「NEWTON」 という芸術イベントを主催してきたCINRANET編集長の柏井万作さんも、多摩市から相談を受け、今回のオンライン文化祭を一緒に作り上げた1人。彼も多摩ニュータウンの生まれ、ここが故郷だ。

「ここ数年、仕事で多摩市にかかわるようになり、あらためてまちの魅力を感じています」という柏井さん。「カルチャーを仕事にしていく立場から言うと、ニュータウンは存在そのものがテーマになる場所です。ほ

かのまちとは成り立ちが異なるニュータウンの面白さを、芸術家や建築の分野の人たちが再発見しています」

西村さんも「子どものころに味わったこの地のよさを思い出して、大人になってからかわりを持ってうとする人が増えています。自分の持っているものをここに生かしたいという胎動を感じる」と話す。「真っ白なキャンパスは、手足をちよっと伸ばせば何か新しいことができる感じ。それが都会でも田舎でもない、多摩ニュータウンならではの魅力ではないでしょうか」

永井さんも「一度、外に出て戻ってくる人も、外から戻ってくる人も、誰かが何かを始めたと思つたとき、気軽にチャレンジできる環境をつくりたい」と言う。「そこから文化が生まれます」と柏井さん。

多摩ニュータウンには、そのための人も場所も揃っている。



地方に住んでいる多摩市出身者や海外からも次々にチャットが入り、場所を選ばずに視聴できるオンラインの面白さを実感。この文化祭の様子はNHKの番組でも紹介され、多くの反響があった。

たくさんの人たちに
愛されている団地

昭和30年代後半から始まった高度経済成長期、日本では東京都市圏への人口・産業の集中が進み、都市の住宅難と郊外地域のスプロール化が課題となっていた。その解決策として計画されたのが多摩ニュータウン事業。東京の西部に広がる多摩丘陵を切り開き、新しいまちづくりが始まった。

最初に完成した諏訪・永山団地への入居が始まってから今年で50年。現在、URは多摩ニュータウン内に32団地1万786戸を管理しているが、50歳となったニュータウンは今、どんな状況なのだろう。UR多摩エリア経営部長の日野康之に話を聞いた。

「ここには何十年と住み続けてくださっている方が多くいらっしゃいます。20代、30代に入居し、子どもを育て、自分は晩年を迎える」と、人生の大半を団地とともに歩まれている方々です。皆さん本当に団地を愛してくださっています。こういう方々に長く住んでいただいていることを誇りにも思います」



多摩市ニュータウン再生担当課長の星野さん。



多摩市ニュータウン再生係長の竹井さん。



初代のニュータウン再生課長を務めた永井さんは、造成工事中だったニュータウンの様子を覚えている。

多摩ニュータウン

ミクストコミュニティを目指して
未来の「ニュータウン」づくりが始まっている

一方でコロナ禍の今、リモートワークが進み、よりよい環境を求めてここに移り住む現役世代、子育て世代も増えているという。

「特にMUI×UR住戸のように、内部をリノベーションした住戸は、そういった若い方々に人気です。さらに、子どもを安心して遊ばせられる点も評価いただいています」と日野。

多摩ニュータウンは緑や公園が多く、その面積は開発面積の30%以上。ニュータウン誕生時から歩車分離も徹底されている。結婚して子どもができて、ここで子育てしたいと戻ってくる人も多いようだ。

さらに、アーティストやクリエイターたちが、多摩ニュータウンの魅力や「再発見」し、新たなムーブメントを起こしつつある。

このように多摩ニュータウンは高齢化という課題を抱えつつも、

若い世代、とりわけ子育てをしているファミリー層にその魅力を再発見されているというのが現状のようだ。

ニュータウンから
文化が生まれる

ニュータウンの誕生とともに生まれた多摩市は、2016（平成28）年に「多摩市ニュータウン再生方針」をまとめている。多摩市都市整備部でお話を伺った。

「少子・高齢化が進んでいる現状をふまえ、まちの再活性化と持続化のための方針をまとめたのが、『多摩市ニュータウン再生方針』です。ニュータウンのよさを生かしつつ、コンパクトな都市構造への再編を進め、人口を持続化させる方針を打ち出しました」。ニュータウン再生担当課長の星野正春さんが説明する。

「まちの再生は、行政が主導してできるものではありません。私たちの仕事は、未来の多摩市の姿を示し、それに向かって皆さんの力をまとめていくことです」と永井修さん。

「具体的には、まちが持続するための、人をひきつける仕組みを考

えると同時に、駅の拠点性を上げ、まちの構造をコンパクトでメリハリのあるものに変えていくことを目指しています。その結果、まちの魅力を取り戻して、将来の人口を横ばい、または微減にとどめたいと考えています」と再生係長の竹井有希さん。「そのためには、若い人たちにもっとニュータウンを知ってもらい、いろいろな世代が住むことでコミュニティを持続可能にしていけるのではないかと」。

URの日野も同様の考えだ。「URが考える未来の多摩ニュータウンはミクストコミュニティの実現、つまり多様な世代が生き生きと暮らし続けられるまちです。行政の力、地元の方々の力も借りながら、住んでいる人が誇りに思える未来のニュータウンをつくっていききたい」

未来の多摩ニュータウン、その姿には希望が見えている。



「多摩ニュータウンは災害に強い安全なまちでもあります」とURの日野。



多摩丘陵を切り開き、道路を造りインフラを整備、新しいまちが生まれていく。写真は永山団地(1975年)。



ニュータウンと駅を結ぶバスは、人々の暮らしを支えた。通勤時間帯には大混雑に。写真は70年代。

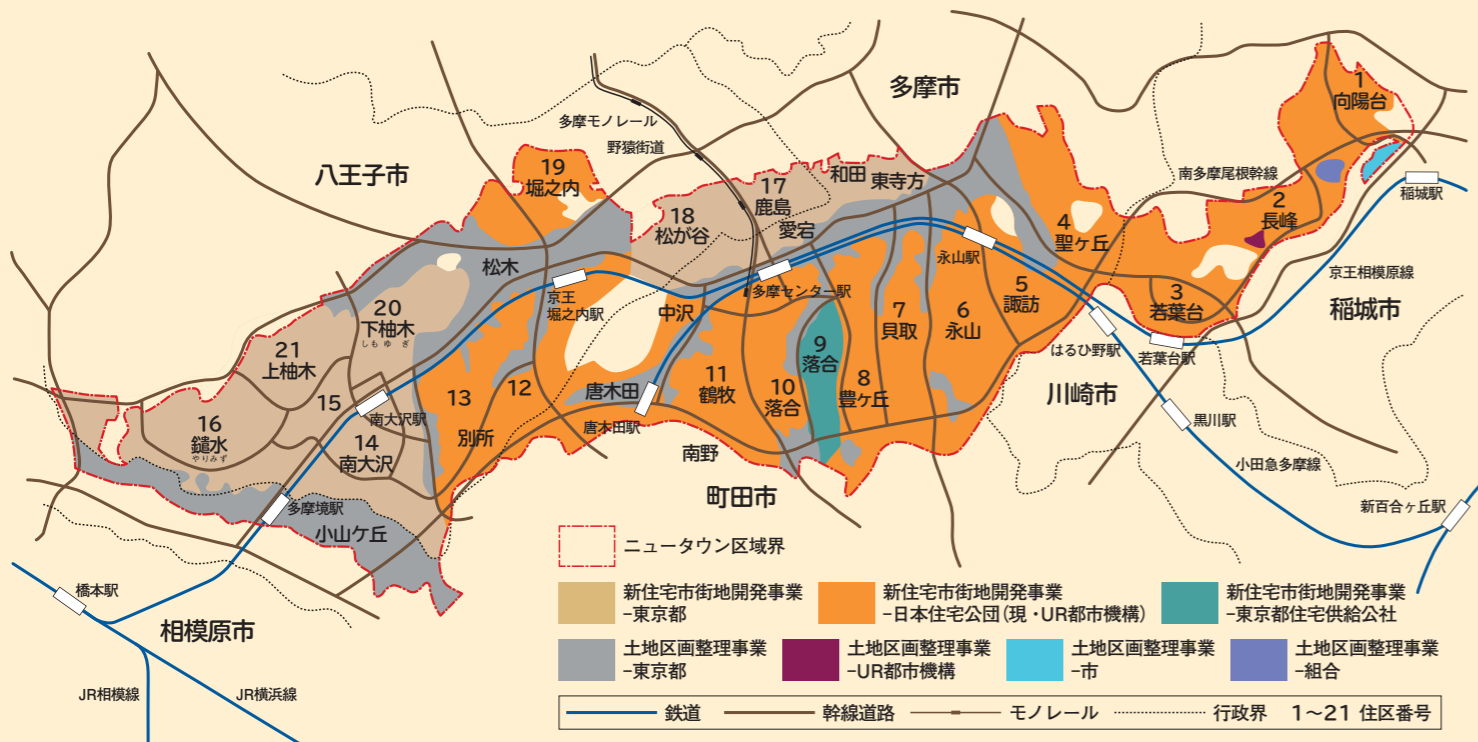


上/市民活動が活発な多摩市。地域活性化を目指す若者たちが集まる「多摩市若者会議」は、ワークショップやフィールドワークを通じて生まれたアイデアを市とも連携して実践。右/誕生から50年経った現在の多摩ニュータウン。木々が豊かに成長し、落ち着いたたたずまいが魅力だ。



多摩ニュータウン
DATA

東京都の西部にある多摩市、稲城市、八王子市、町田市の4市にまたがる、東西約15キロ、南北約5キロ、面積約3000ヘクタールの丘陵地につくられた日本最大規模のニュータウン。昭和40(1965)年に計画が決定、東京都、東京都住宅供給公社と日本住宅公団(現・UR)などによって開発が進められ、入居は昭和46(1971)年、諏訪永山から始まった。現在、人口は約22万人(令和元年)。URは賃貸・分譲合わせて約28,000戸の住宅を供給。



ここに来れば人とつながれる 地域に開かれたみんなの居場所「とよよん」



上/11月に行われたミュージックベル体験の様子。明るくフレンドリーなサポーターの存在は大きい。お年寄りを対象にしたLINEの使い方教室なども人気だそう。

左/豊ヶ丘団地商店街にある「健幸つながるひろばとよよん」。当面の間は月・水・金にオープン。



コミュニティスペースには、講座で制作した手作り作品が展示されていた。今後は団地をテーマにした写真展なども予定している。

マにしたイベントができないなどの制約があるなかでも、「とよよん」を中心とした人の輪は徐々に大きくなってきている。

2 020年9月。多摩ニュータウン豊ヶ丘団地商店街に「健幸つながるひろばとよよん」がオープンした。社会福祉法人楽友会が、多摩市社会福祉協議会と連携して運営を行うコミュニティスペースだ。団地住民が気軽に立ち寄れるスペースと、楽友会が運営する居宅介護支援事業所の2つが同居した形になっている。多摩市で特別養護老人ホームやデイサービス運営する楽友会が、新

しい拠点として豊ヶ丘団地を選んだ理由を、楽友会の齋藤誠さんはこう話す。「私たちは、地域に暮らす皆さんが気軽に困りごとを相談できる場所でありたいと思っています。そのためには顔が見える関係をつくるのが大事。団地に暮らす皆さんに最も身近な団地商店街は、理想的な場所なのです」

多世代交流のきっかけをつくりたいと語るの、多摩市社会福祉協議会の森田一光さんだ。「団地にお住まいの子育て世代のご夫婦、子どもたち、お年寄りまで、それぞれの世代に関心をもってもらえるイベントや講座を開催しています。参加者の皆さんと話さなかで、いろいろなアイデアをお持ちの方、さまざまな特技をお持ちの方が多いことがわかってきたので、今後はそういった方たちに協力してもらって、市民が主役の居場所になればと考えています」



多摩市社会福祉協議会の森田さん。



楽友会の齋藤さん。

「とよよん」の運営には、多摩市子育て世代まで幅広い。「ご高齢のお客さまは、お買い物だけでなくお店の従業員との会話を楽しみたいという方も多く、お年寄りが多く、団地に愛着を持っている方が多く、地域のことがよくわかっており、お客さまの信頼につながっていると思います」と、君成田大介店長。「世間話を楽しみに来られる方と私たちもできる限りお話しするようにはしています。ほとんどの常連さんとは顔見知りです」と従業員

地域密着で団地の暮らしを支える 「J Smile FOODS MARKET」



多摩ニュータウン貝取団地商店街に昨年4月にオープンした「J Smile FOODS MARKET」。



上/パート従業員の小畑さん(手前)、芝崎さん(奥)も貝取団地在住。お客さまとのふれあいを大切にしている。左/配達サービスを担う「ネコサポステーション」。店内では地域向けのイベントも行われている。



日 常の買い物に不便を感じている人に、便利なお買い物環境を提供したい。団地の暮らしをより快適にしたい。そんな思いから、昨年4月、貝取団地商店街の一角に「J Smile FOODS MARKET」多摩ニュータ

ウン貝取団地店」が開店した。3年間この地で営業していたスーパーを引き継いでのオープン。経営はURのグループ会社、日本総合住生活（JS）だ。「JSでは団地の活性化などを目的として、コンビニエンスストア

の店舗を経営してきました。さまざまな業態でお客さまの暮らしをさらに便利にしたいという考えから、スーパーの1号店としてオープンしました」と、住生活事業企画部の小山隆志は言う。お客さまはシニアから

子育て世代まで幅広い。「ご高齢のお客さまは、お買物を楽しまないという方も多く、お年寄りが多く、団地に愛着を持っている方が多く、地域のことがよくわかっており、お客さまの信頼につながっていると思います」と、君成田大介店長。「世間話を楽しみに来られる方と私たちもできる限りお話しするようにはしています。ほとんどの常連さんとは顔見知りです」と従業員



「配達サービスも好評です。新しいお客さまを増やす手段にしていきたい」と語る、JSの小山。



22名のパート、アルバイトを束ねる君成田店長。「今後はお店からの情報発信をさらに強化して、お客さまのご期待に応えていきたい」

着。お客さまとの距離が近いのだ。一番身近なスーパー」として、お客さまから品揃えなどに対する要望をいただくことも多く、可能な限りお応えすることで信頼を積み上げている。いま、「J Smile FOODS MARKET」が力を入れてるのが配達サービスだ。電話やインターネットで注文を受け、お店にある商品をご自宅までお届けする「買物サポートサービス」は、ヤマトグループが運営する暮らしのサポート拠点「ネコサポステーション」との連携で実施。注文受付と配達にはネコサポが行う。利用者は徐々に増加し、お店から離れた場所からの利用もあるという。「今後は、商店街と連携したイベントに参加するなど発信力を強化して、お店をより多くの方に知っていただきたいと思っています」と語る君成田店長。地域密着スーパーとして、団地に住む人々の暮らしを支えている。

無印良品の家具でコーディネート提案

広がりを感じるLDKに

和室と洋室の境の引戸を撤去して、キッチンとのつながりを生み出し、リビングダイニングの一部となるようにして広がりをもたせた。



納戸をワークスペースに

リビングから離れた納戸を、生活音を気にせず仕事ができる空間に。ON/OFFを明確にするため、黒で統一して異なる雰囲気。



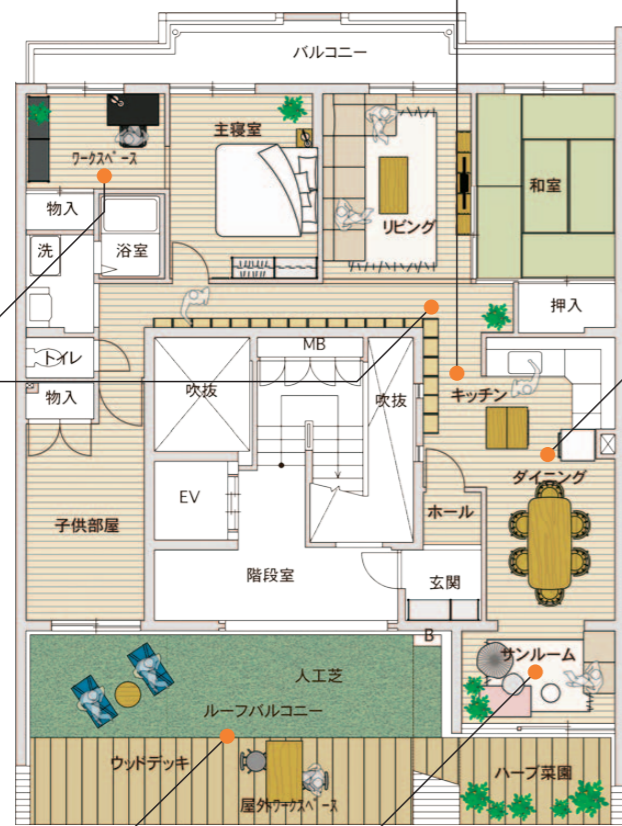
廊下を図書&アートスペースに

壁沿いに本棚を並べることで、キッチンと廊下とリビングをゆるやかにつなげた。壁にはアートを飾って。



バルコニーを有効活用

コンクリートのバルコニーに、ウッドデッキや人工芝を配置。開放感あふれる気持ちよい空間に。アウトドア気分を楽しんだり、テレワークをしたり、幅広く使えるスペースにした。



サンプルルームのスペースを一室に

LDKとして広く使って有効活用。



コ ロナ禍で在宅ワークが普及するなか、団地のよさが見直され、郊外のニュータウンに注目が集まっている。住戸の広さに加え、建物の間隔が広くて光や風がよく通り、たくさんの緑や広場

がある、といった屋外環境も人気の理由だ。八王子市の「ベルコリーヌ南大沢」はヨーロッパ・テイストでまとめられたオシャレな団地。最寄りの京王相模原線・南大沢駅周辺にはショッピングモールをはじめ

めアウトレットモールやシネマコンプレックスもあり、暮らしやすいと評判だ。MUJとURの取り組みで改修された住戸やキッチン付きの集会所もあるベルコリーヌ南大沢で、新たに無印良品の家具でコーディネート

ネットしたモデルルームが誕生した。100平方メートルほどの広さのある住宅を「どこにいてもテレワークができる暮らし」をテーマにコーディネート。3世代での居住も考慮した提案で、全国の団地リノベーションで積み重ねてきた経験や工夫が活かされている。リノベーションしなくても、家具の選び方や配置で、こんなに雰囲気が変わり、暮らしが豊かになるとは！ そんな驚きに満ちたモデルルームだ。

“便利”で“楽しい”移動販売車がやって来た！



上/「長峰・杜の一番街」の管理サービス事務所前の広場に移動販売車が到着し、住民が集まってきた。1995年に入居がスタートした長峰・杜の一番街の住戸は約400戸。

左/次世代のエコトラック電気式冷蔵冷凍システムを搭載した最新の車両。冷却するためのアイドリングが不要で環境にやさしく、静かに買い物ができる。

多 摩ニュータウンの東に位置する「ファインヒルいなぎ長峰・杜の一番街」。起伏を生かした緑豊かな高台にゆったりとURの住棟が並びこの地で、お住まいの方の意向もあり、昨年12月から新たなサービスが始まった。食料品や日用雑貨の移動販売だ。

初日のこの日、知らせを聞いて集まってきたのは、赤ちゃん連れの親子から80代まで幅広い年代の住民の方々。やってきた移動販売車には、お弁当やお菓子、野菜や果物、肉や魚、アイスクリームなどがぎっしり。トイレットペーパーや洗剤など日用品も揃っている。長峰・杜の一番街の最寄駅は若葉台駅。隣の稲城駅からそれぞれバスが運行している。景観の豊かさに加え、両駅から新宿まで約30分と都心へアクセスしやすいため、最近では都心からの移住者も増えている人気のエリアだ。ただ、スーパーに行くには、2キロメー

以前から多摩市をはじめ丘陵地や買物に不便な地で移動販売を行っている京王電鉄だ。京王電鉄とURは、沿線および周辺地域において、持続可能な住まい・まちづくりの実現のために連携協定を締結。協力して魅力ある生活拠点の形成に向けて取り組みを進めている。長峰・杜の一番街での移動販売もその一環だ。



京王電鉄のこれまでの経験に基づく英知が集約されているという移動販売車。陳列が工夫され、両側から商品が見られるので買い物しやすい。

「少しでも地域の方のお役に立って、暮らしやすいまちにしていこう」という声をはじめ、「近くでお利身が買えるのがうれしい」「足が悪いですので普段の買い物は家族に頼んでいるけれど、実際に自分で見て選べるのは楽しい」など喜びの声が寄せられた。

「お手伝いできたうれしいです」京王電鉄の千葉敏行さんは、そう言って「商品は約250アイテムを揃えています。その日の朝、京王ストアから積み込みますので、新鮮です」と笑顔で胸を張った。買物物の利便性を高めるだけでなく、外出の機会や住民同士の会話の機会にもなり、コミュニティ活性化につながる面もある移動販売。実際にこの日も買い物に集まった人同士で「元気だった？」と近況を報告し合ったり、「うちでお茶飲んでいきなさいよ」といった会話が交わされていた。移動販売は週2回。「次回も楽しみ」という声に見送られながら、移動販売車は次の場所に向かった。

千里ニュータウン

大阪府
吹田市豊中市

環境を守り、居住性をアップ 「千里グリーンヒルズ」が誕生

大阪の千里ニュータウンは誕生から60年近い年月が経ち、団地再生事業が進められている。URの新たな団地の名称は「千里グリーンヒルズ」。より快適な居住性を確保しつつ、従来の環境のよさを生かした、これからの千里ニュータウンの姿がここにある。



千里グリーンヒルズ東町

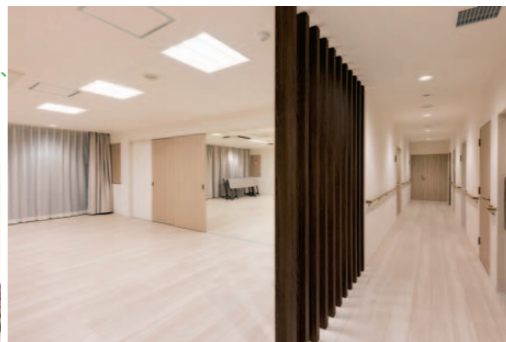
右／千里グリーンヒルズ東町の外壁は、空に溶け込むよう白や無彩色系がベース。周囲の豊かな自然環境との調和に配慮した。
下／SENRI GREEN HILLSの名の入ったデザインマンホールが団地内に。



高低差のある中庭をゆるやかに囲んで、新しい住棟が建つ。



上／エントランスにはレンガ調タイルを使い、重厚感を醸し出す。灯がともるとまた違う雰囲気。
右／住棟内外のサインも一新、どれもわかりやすくオシャレだ。



右／新しくなった集会所。手前のスペースは住民が気軽に利用できる談話室。キッチンも完備。
下／左から新千里東町団地自治会の前会長・古橋雅巳さん、副会長の福岡まさきさん、エルダー東町(老人会)会長の加藤豊明さん。3人ともこの団地に40年以上お住まいで、建て替えられた住棟での暮らしを楽しみにしている。



緑と丘をイメージする グリーンヒルズに統一

東の多摩、西の千里と言われる日本のニュータウンの先駆け、千里ニュータウン。まちびらきは1962(昭和37)年。丘陵を生かした1160ヘクタールものエリアに計画的に団地が配置され、1975年にはニュータウン全体で人口が12万8000人を超えた。まちの約21パーセントが公園や緑地であるのも特徴で、豊かな自然の中に続く落ち着いた街並みは、60年の時を経て、ますます魅力を増している。

この千里ニュータウンで建て替えが進んでいる。URでは、まず新千里東町団地と千里竹見台団地の団地再生事業が始まり、昨年10月に新しい住棟が完成、入居が始まった。

この団地再生事業を機に、新しい団地は「千里グリーンヒルズ」という名称に統一されることになった。計画担当・小

ながつており、それを踏襲しながら、千里グリーンヒルズ東町を設計しました。中庭を確保しつつ、庭を完全にふさがず、適度な抜け感をつくるよう工夫しました」と説明する。歩いてみると、住棟から中庭へと自然に足を運びたくなるような、ゆったりとした雰囲気がある。

千里のシンボル スターハウスも新しく

150種以上の樹木が植えられた「千里みどりのさんぽみち」に沿って広がるのが千里竹見台団地。こちらも南側と北側エリアでそれぞれ1棟ずつ建て替えが完了。新しい「千里グリーンヒルズ竹見台」には、団地のシンボルであった高層スターハウスが生まれ変わった。スターハウスというのは、建物を上空から見たときに形状がY字形で星のように見えることから名付けられた愛称。「駅からも見える竹見台の高層スターハウスは、まちの景観として人々に愛されてきました。そこで建て替えに際しても、居住性をアップしてこれを踏襲しました」と計画担当の山崎貴之。

寺澤も、「建て替え前の中廊下を、中庭をはさんだ二重廊下(ツインコリドー)型にすることで、太陽の光が上から降り注ぎ、建物全体が開放的になったと思います」と説明する。

建て替えに際しては、東町、竹見台と

野田和晃が説明する。

「千里グリーンヒルズ」には、千里ニュータウンとUR賃貸住宅の魅力のひとつでもある緑と屋外空間、そして暮らしの中で感じる豊かさや心地よさを育む舞台にしていきたいという想いを込めています」

小野田は千里ニュータウンのブランドイメージ検討を行うURのワーキンググループのメンバーだ。このグループはUR西日本支社の若手社員が中心で、計画から設計、管理、営業までを網羅したメンバー15名で構成されている。

千里中央駅にほど近い位置にある新千里東町団地の計画担当・夫馬千尋は「建設から50年が経過。多様な世帯が暮らす住戸プランを用意しました」と話す。完成した千里グリーンヒルズ東町は、高さの異なる3棟の建物が、中庭をゆるやかに囲むように建つ。

設計担当の寺澤裕実子は「東町の既存住棟は、『囲み型配置』がゆるやかにつ

も風呂や洗面、キッチンなどの室内設備に真新しいものを導入するだけでなく、バルコニーを広くとったのも特徴。建物全体の色彩やサインも一新し、千里グリーンヒルズのブランド力アップを目指している。

長く住む人々に愛され 新たな住人も歓迎

大規模な団地の建て替えは、長い年月が必要な根気のいる事業。お住まいの皆さんにも不便をかけることになる。だが、新しくなった千里グリーンヒルズでの住み心地に満足してもらえれば、担当者の苦労も吹き飛ば。さっそく千里グリーンヒルズ東町に入居された団地自治会の皆さんに感想を聞いてみた。

「バルコニーが広くて快適」

「風呂が入りやすくなって安心」

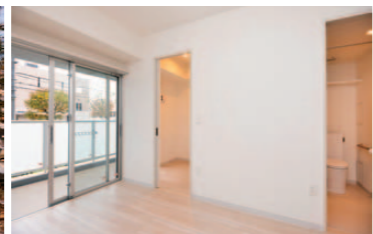
新しい集会所に集まっていた自治会の皆さんからは、住居に満足する声が次々に聞かれた。

皆さん、この団地に住んで40年以上。大阪の中心部や空港にも近い立地のよさ、周辺環境のよさが自慢のこのまちを、愛してやまない人々だ。

「ここならまだまだ長生きできるな」と笑い合う皆さん。
URの「千里グリーンヒルズ」が、これからの千里ニュータウンをますます魅力あるまちにしてくれそうだ。

千里グリーンヒルズ竹見台

右／千里グリーンヒルズ竹見台に新たに登場した高層スターハウス(左後方の建物)。手前2棟は建て替え前の高層スターハウス。
下／千里グリーンヒルズ竹見台に新しくできた集会所のキッチンに立つ、左からURの夫馬、寺澤、小野田、山崎。



上／シンプルな室内。奥行きのあるバルコニーにイスを置いてくつろぐ人の姿も見かける。
左／北区域に完成した新築棟。吹き抜けのエントランスなどホテルのような空間も。

URの技術とノウハウを 西シドニーの新しいまちづくりに生かす

2018(平成30)年に「海外インフラ展開法」が成立し、URは海外でも都市開発の支援ができるようになった。URでは、すでにいくつかの国と調整が始まっている。そのなかから、事業が具体的に進み始めているオーストラリア・西シドニー地区のプロジェクトを紹介しよう。

海外の都市開発事業に 日本企業参入の先導役

民間企業単独では参入が難しい海外での大規模な都市開発事業。海外インフラ展開法は、日本の事業者の海外事業への参入を促進することを目的とし、そのための先導役として期待されているのがURだ。

URは海外の政府や地方政府などに向けて、これまでのニュータウン開発などのノウハウや技術を生かし、コーディネーターやアドバイザーとしての役割を担い、技術支援を行う。必要に応じて日本の事業者とも連携し、海外パートナーと投資家との調整や研修の受け入れ、技術者の派遣なども行っていく。

現在、URの海外展開支援部は中国やタイ、ミャンマー、インドなど9カ国を主な相手国とした都市開発に関する支援に関わっており、そのうちのいくつかの

国とは都市開発事業等に関する覚書を交換するところまで進んでいる。総務・企画を担当する西野浩司は、「国によって文化も違いますし、開発や経済成長の度合いもさまざま。案件も多様ですが、担当者たちは皆、相手国の課題解決の手助けをしたいと動いています」と説明する。

新空港を核にした 大規模開発が始まる

事業が進み始めているのが、オーストラリアのニューサウスウェールズ(NSW)州だ。オーストラリア最大の人口を有するシドニーのある同州は、人口増に伴う過密化の緩和や経済成長に対応するため「シドニー大都市圏構想」を立て、オーストラリア東部沿岸部の最大都市を東・中央・西の3つの核に分散して拡大する計画を立案。この中の西側エリア、Western Parkland Cityで、新空港を核とした新しいまちをつくる計画が決定した。

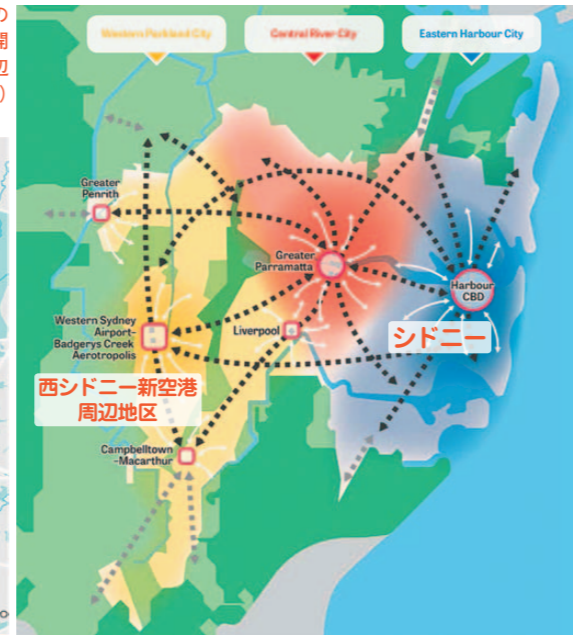


上/オーストラリア最大の人口を抱えるシドニー。

左/新空港周辺には、広大な牧草地が広がっている。



エアロトロポリス駅のイメージパース。※2



右はシドニー大都市圏の3つの都心戦略。下は開発に着手する新空港周辺地区(エアロトロポリス)の図。※2



URは2019(令和元)年、州開発公社とエアロトロポリス開発に向けた計画策定のためのアドバイザー業務受託契約を締結した。



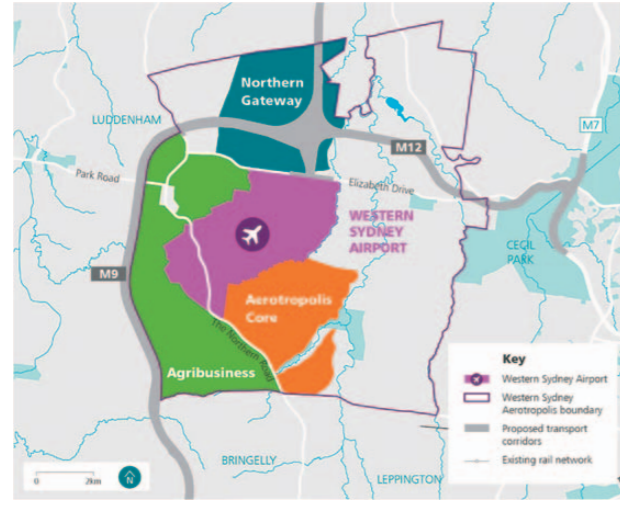
海外展開支援部を後方から支援するURの西野。



URの若山は、ニュータウン部門の経験が豊富。



「人間関係を大事に育てたい」と話すURの黒田。



この西シドニー新空港周辺地区(エアロトロポリス)では、航空・宇宙産業にかかわる研究開発機関などを誘致する「エアロトロポリス・コア」、高等教育機関や医療施設などを誘致する「ノーザンゲートウェイ」、それに既存の農業や畜産業を集積させる「アグリビジネス」の3地区を先行して開発することを決定した。

URは2019年にNSW州からの要請を受け、西シドニー新空港周辺地区での技術協力等に関する契約を締結。新しいまちづくりに、これまでのノウハウと技術を提供することになった。

この計画は、オーストラリア連邦政府と州政府、地元自治体が協定を結んでつくられた大規模の大きなもの。西シドニー新空港周辺のエアロトロポリスだけでも約1万1200ヘクタール、山手線の内側がすっぽり入るくらいある。

「ここに新空港をつくり、中心部まで鉄道を敷設。周囲に新しいまちをつくる事業にURが参画することは、大きな意義がある」と、事業を担当するURの若山真樹は言う。

「これまでURは多摩ニュータウンなどで大規模な面積を長期間かけて開発してきた実績があり、それが評価されたのだと思います。大規模開発の実現には、立案した計画を時間の経過とともに変更することもあります。そういった経験を経

てまちをつくってきた、その知見に期待されているのだと思います」。現地政府との対話を担当するURの黒田直樹は、URに求められていることをこう分析する。「日本ではこれまで鉄道を中心としたまちづくりが行われてきましたが、世界的にもいま、TOD(公共交通指向型開発)が注目されており、こういった面でもURのノウハウが開発に生かされると考えています」と若山も話す。

NSW州でこの案件を担当する州開発公社は発足して2年余り、もちろん新しい都市の開発は初めての経験だ。昨年は新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの打ち合わせが続いた。それでも公社からの情報提供や意思の疎通はスムーズに進んでいると黒田は言う。

「このプロジェクトは、規模や内容にも心が躍りますが、現地の政府機関もわれわれを歓迎してくださるし、日本の国交省が後方支援をしてくれるところも頼もしいです。なんとしても成功させたい」と黒田が言えば、

「人口が減っていく日本では、二度とないであろう大規模なまちづくり。そこにURのこれまでの経験と技術が生かせることは、担当として望外の喜び」と若山も話す。

海外展開支援部のメンバーたちには、海の向こうに生まれる新しいまちと、喜ぶ人々の笑顔が見えているようだ。



DANCHI PICKS **楽しい 団地**

洋光台団地 横浜市磯子区

集会所が新たなコミュニティ拠点に



従来のサンクンガーデン(半地下の広場)を生かして改修した集会所まわり。写真の正面右がコミュニティーカフェ「よっしーのお芋屋さん」。手前と左側に集会所があり、階段下の左側から奥の広場へつながっている。

1970(昭和45)年に誕生した洋光台団地は、中央・北・西の3エリアに約3200世帯が暮らす大規模団地。昨年、北エリアの集会所と広場の改修が終わり、地域の交流スペースとなるカフェを中心に、新たな風が吹き始めている。

人と人をつなぐ コミュニティーカフェ

横浜駅からJRで約20分、洋光台駅で下車して北へ向かって緩やかな坂を上っていくと、人が集まっている場所があった。昨年改修工事が終わり、瀟洒な建物に生まれ変わった洋光台北団地の集会所一帯だ。階段を囲むように回遊できる。特ににぎわっているのは、集会所の一角にオープンしたコミュニティーカフェ「よっしーのお芋屋さん」だ。カフェを営むのは、種子島産の「熟成するし安納芋」との出会いで人生が変わったというよっしーさん(吉川ゆうじさん)、優貴さん夫妻。焼き芋から笑顔に、を motto に、農家から直接仕入れたこだわりの15種類ほどのお芋を、それぞれの特性に合わせて熟成させ、炭火焼きなど、お

いしさを引き出す方法で提供している。あわせて、おすすめ天然調味料や有機野菜、ドリンク類も販売している。以前からさまざまな場所でイベントや企画を手がけ、人々をマッチングさせてきたよっしーさん。

「僕たちの役割は、みんなが楽しめる場所をつくり、ここをベースに人と人をつなぎ、まちを元気にすることです」と話す。昨年、洋光台に移り住んで感じたのは「風が通り、人の雰囲気がいいこと」。そして「人と人をつなぐ人がいること」だという。コロナ禍で制約はあるものの感染予防に努めながら店内でミニライブなどのイベントも開いている。次々とやって来るお客さんに気を配り、笑顔で会話を交わすよっ



使いやすくなった集会所(手前の平屋の建物)。



妹尾和子=文、菅野健児=撮影



上/カフェ内にブックディレクターの幅 允孝さんセレクトの本棚を設置。テーマ別にバスケットに入った本は、団地内になら持ち出せる。右/よっしーさんと優貴さん。扱っているのは無農薬栽培のお芋。「サツマイモは皮の近くにヤラピンという整腸作用のある物質が含まれているので、皮ごと食べてもらいたいです」

集まって住む魅力を！ 団地の未来プロジェクト

洋光台団地は、団地を核としてまち全体の魅力向上を目指すURの「団地の未来プロジェクト」のモデルエリアでもある。このプロジェクトのひとつとして、建築家の隈 研吾さん、クリエイティブディレクターの佐藤可士和さんのディレクションのもと、これまでに洋光台中央団地の外壁や広場などの改修を行ってきた。いずれも古いものを生かしながら、新たな価値を提案するもので、モダンで開放的になったと地域の人々に喜ばれている。

「主役は住んでいる人や使う人。URの団地ならではのかなり贅沢なこの空間が、これからどんなふうに使われるのか楽しみですよ」と佐藤さんは期待を寄せる。



もとの傾斜を生かしてリニューアルした広場。春に咲く桜や藤の花が楽しみだ。

住棟は外壁を白く塗り直し、ベランダの手すりや階段室を木目調にすることで、明るくモダンな印象に。



築40年を超える団地の再生と未来を考える「団地の未来プロジェクト」のディレクションを担う隈 研吾さん(右)と佐藤可士和さん(中央)。左はUR理事の中島正弘。

北エリアの集会所もプロジェクトの一環として、建築アイデアコンペで選ばれた最優秀案(デザインアーキテクト・NAAW)の設計をもとにリノベーション。隣接する広場も改修した。「住棟と広場、集会所のつながりを意識して、もともと広場にあった柵や壁を外し、土と砂

改修着工時から関わってきたURの中川匠は、「可士和さんディレクションによる改修により、団地のもつポテンシャルを再発見しました」と微笑む。そして、「団地の未来プロジェクトの取り組みが、今後、他のUR団地のモデルになれば」と意気込む。



26 UR PRESS vol.64 *佐藤可士和さんの展覧会(予告)情報を38ページに掲載しています。

URのまち

あのまち このまち
歩いてみよう! その25

奈良県 奈良市 **ならまち周辺**

URが手がけた団地のまわりには、素敵なまちが広がっています。地図を手に歩いてみませんか?

団地名	団地戸数	管理開始
桂木	570	1967年
奈良・紀寺	252	2003年



ならまち
世界遺産・元興寺の旧境内を中心としたエリア。明治・大正時代の町家の風情が残る。



特産品いろいろ♪

奈良みやげ

- 1 山崎屋の奈良漬
- 2 日本市 奈良三条店の蚊帳ふきん
- 3 並宗の柿の葉ずし
- 4 田村青芳園茶舗の大和茶
- 5 糸季の靴下



自家栽培の大和野菜が味わい深い料理店 **粟ならまち店**

榎舎
ていねいで真心がこもった和菓子の店

ならまち格子の家

ならまちの伝統的な町家を再現。自由に見学OK! 当時を体感できる。

- 虫籠窓
- 格子 通風採光がよく、外から中は見えづらい。
- 箱階段 階段下には収納スペース。



UR 奈良・紀寺

焼きナスとそうめん(温)
建物元芸者の置屋。雰囲気かすてきな居酒屋 **まんぎょく**

東側
屋上広場は360°のパノラマ! **奈良県庁**

世界遺産 **興福寺**

710年建立。元々は藤原氏の氏寺だった。



中金堂 国宝館
2018年に30年ぶり!! に再建。

世界遺産 **元興寺**

718年に飛鳥から移建。当時の敷地は約30倍!

禅室 極楽堂(本堂) 国宝

庚申堂 災いを代わりに受けてくれる「身代わり」がたくさん!

鹿の舟 観光案内所・食堂・カフェがあるハイセンスな複合施設。

葛餅
できたてはあたたかくて超るぶる!

国宝 **大仏殿**
世界最大級の木造古建築。二度焼失。

二月堂 国宝
高台にあり夕焼けの景色が美しい!

国宝 **八角燈籠**
日本最大最古の燈籠

江戸時代に再建。創建時は約86mあった!

幅約57m!

約4.6m

吉野本葛 天極堂 奈良本店 老舗の直営店

国宝 **南大門**
東大寺の正門。巨大金剛力士立像を安置。

阿形 高さ約8.4m! 運慶・快慶一門作

春日大社 一之鳥居 本殿まで徒歩約20分!

奈良公園 総面積500ha!

森林浴!

鹿がいっぱい!

春日大社 世界遺産

奈良公園の鹿
神の使い。奈良時代に神様が白鹿に乗ってこの地にやって来た。

現在約1300頭! 全て野生の鹿だが、今も神鹿として大切に保護されている。

奈良は清酒発祥の地!

室町時代に奈良の正暦寺で清酒醸造技術が確立。

1 **春鹿酒蔵** (今西清兵衛商店)
500円! グラスを購入。オススメの5種類を利き酒できる!

2 **八木酒造**
正暦寺の菩提配を復活プロジェクトで復元し、升平を醸造。
※清酒醸造の酒母の一種。

かつて春日大社の禰宜(神官)が通った通路。
禰宜の道(みけのみち)

志賀直哉旧居
自ら設計し、暗夜行路などを執筆。

新薬師寺
747年建立。

本尊の薬師如来坐像を十二神将立像がぐるりと囲んで守る。

奈良時代の文化が花開いた地
710年に平城京へ遷都され、文化と政治の中心として栄えたこのエリアは、世界遺産に登録されています。国宝もいっぱい!

圧巻! 国宝仏像の半分以上が奈良に!
奈良仏像界の2大スーパスターを紹介!!

興福寺国宝館 青年期の顔

東大寺大仏殿 752年に1万人の僧侶などが参列して開眼。

国宝 **阿修羅立像**
ルーツは古代インドの神々に満ちた戦神

天部/乾漆造(脱活乾漆造) 153.4cm・約15kg
超軽量!

約1m!

如来/銅造/1498cm・約250t

見仏豆知識
仏像の種類

如来 悟りを開いた者。シンプルな身なり。

菩薩 如来をめざして修業中。ゴージャスな姿。

明王 武器と強面で迷いを砕く。

天部 仏教の守護神。姿もさまざま。

如来のお姿

肉髻(知恵のコブ) 螺髻 (手指の形が) 印相 (意味を示す)

白毫 (悟った時に) 光った!

施無畏印 (恐れを取り除く) 与願印 (願いを叶える)

2004年にCGで色柄が再現された伐折羅(バザラ)大将 (天部/塑像/約162cm)

奈良公園が大好きです! 広大な園内はバラエティに富んだオープンスペース。ゆったりびのびできますよ!

なら・観光ボランティアガイドの会 朱雀 山本 政信さん



2020年9月20日にオープンした東日本大震災・原子力災害伝承館。地震と津波、原発事故の体験をリアルに再現した導入シアターの映像を監修したのはクリエイティブディレクターの箭内道彦氏、ナレーションは西田敏行氏(共に福島県出身)。



震災・原子力災害伝承館・双葉町産業交流センター・福島県復興祈念公園 合同開所式
真新しい産業交流センターで行われた合同開所式では、平沢勝栄復興大臣をはじめ、内堀雅雄福島県知事(下右)、伊澤史朗双葉町長(下左)らが挨拶。関係者がそろってテープカットを行い、3施設の開所を祝った。



復興の「今」を見に来て！ 第21回 Part1 双葉町 福島県

2020年10月1日にオープンした双葉町産業交流センター。1階には双葉町のソウルフードを提供するフードコート、2階には来訪者が自由に利用できる休憩スペース(右)も。4階の屋上展望スペースからは、復興へ歩む中野地区を一望できる。



復興の先駆けとなる なりわいの拠点が始動

運転再開されるなど、着実に復興への歩みを進めている。
なかでも中野地区は、なりわいの再生・企業誘致を行う復興産業拠点、また被災伝承・復興祈念ゾーンと位置づけられ、先行的に整備が進められてきた。
今回開所となった伝承館と復興祈念公園は県が整備。伝承館は7面巨大スクリーンやさまざまな展示物で、複合災害の経験や教訓、復興の歩みを発信。開館から20日で1万人超の来場者を記録した。
一方、産業交流センターと産業用地は町が整備。センターには10社に及ぶ復興関連企業の事務所や、震災後町内初となる飲食店、土産物店も入居。中野地区の就業者や来訪者、一時帰宅する町民のサポートなどを行う。
そして、隣接する3施設が連動することで、新たな産業や復興ツリゾムの創生も目指している。これら中野地区の復興で双葉町をサポートしてきたのがURだ。福島震災復興支援本部の太田 巨が経緯を説明する。
「URは平成29年に双葉町と復興まちづくりに関する協力協定を締結。中野地区の約50ヘクタールの基盤整備と産業交流センター建設

復興 興への歩みを進める双葉町。先行して整備が進む「働く拠点」の中野地区に、昨春秋、「東日本大震災・原子力災害伝承館」「双葉町産業交流センター」と「福島県復興祈念公園」が相次いでオープンした(復興祈念公園は一部開園)。
復興の象徴となる3施設がオープン
雲一つない秋晴れに恵まれた昨年の11月7日。双葉町の海沿いに位置する中野地区で、「東日本大震災・原子力災害伝承館、双葉町産業交流センター、福島県復興祈念公園 合同開所式」が開かれた。当日は、9時半からオープニングイベントを開催。きらびやかな衣装を身にまとった「浪江町相馬流れ山踊り」の舞いや、勇壮な



オープニングイベントでは、「標葉せんだん太鼓」など地元の伝統芸能も披露。観客の拍手喝采を浴びていた。

の支援への発注をいただき、我々のまちづくりに関するノウハウを駆使して、全力でお手伝いしています。中野地区は同じ街区のなかに町と県、国など、整備する主体が異なる場所が混在しているため、工期や工事車両の調整などが円滑に進むよう苦心しました」
UR 双葉復興支援事務所で基盤整備業務を担う佐藤史章は、当地で4年目を迎える。
「中野地区は津波の被害に加えて避難指示区域でもあったため、最初は電気も水道も道路もなく、工事現場に通行人が必要だったり、経験したことのない事業でした。いまはやっとここまで来たという感慨と、この地区に建物が建ち、企業が稼働して人が戻ること、これから大きく変わるだろうという期待を抱いています」
双葉町において、URは中野地区のほかにも、JR双葉駅東側での基盤整備や駅前広場、道路の整備を担当。また、双葉町が「住む



「一過性のぎわいでなく、長く人々に関心をもってもらえるまちになってほしい」と話すURの太田。

「標葉せんだん太鼓」などの郷土芸能のライブステージのほか、JR双葉駅西側地区につくられる新しいまちなど「出歩きたくなるまちづくり」を目指す上でも重要なスマートモビリティの試乗会など、催し物も盛りだくさん。静かだったまちに、久しぶりに人々の笑顔と歓声が戻ってきた。
14時から行われた式典は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小して行われたものの、国や県などの関係者らが出席。伊澤史朗双葉町長は「中野地区は双葉町の復興の先駆けとして重要な役割を担う場所。開所は町にぎわいを取り戻す第一歩であり、地方再生のモデルとなる新たなまちづくりに挑戦する」と力強く宣言。平沢勝栄復興大臣は「福島県の皆さんと一緒に寄り添い、足並みをそろえて、福島県の発展に全力を尽くす」と3施設の開所を祝った。

なりわいと住まいにぎわいの再生へ
地震、津波、原発事故の複合災害に見舞われた双葉町。長く全町避難が続いていたが、2020(令和2)年3月には避難指示が一部解除。町を通るJR常磐線が全線

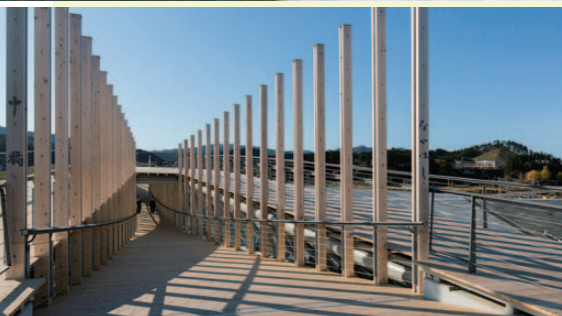


双葉町復興推進課の横山 敦さん。「産業用地には17件22社の企業が稼働予定。南側には134室のホテルも建設中です」



「企業が稼働してからが、産業交流センターの効力発揮のとき。多くの企業に利用し、交流してほしい」とURの佐藤。

拠点」と位置づけるJR双葉駅西側地区でも、22年春頃の居住開始に向けて、基盤整備や宅地、道路の整備などに尽力している。
双葉町復興推進課の横山 敦さんは、「土地の造成をしながら水道や道路などのインフラ、建物の建設と、複数の事業が重なって複合的な仕切りが必要な現場で、町だけではできないところにURさんが入っていただき、本当に助かっています。これから新しく生まれ変わるまちには、ぜひ多くの方に興味を持っていただき、外部にもファンを増やしていきたい」と力を込める。
なりわいと住まい、そしてにぎわいの再生へ。URはこれからも双葉町をしっかり支えていく。



上・左/隈研吾氏がデザインした中橋。橋長80.6m。2層構造の床板などに、町内産の南三陸杉がふんだんに使われている。その姿は神社の千本鳥居を連想させ、鎮魂の場への参道のようにも見える。

右/「南三陸町の人々のあたたかさが心に残ります」と話すURの野呂。



公園の一角にある旧防災対策庁舎。議論の末、令和13年まで県有化され、保存の是非を検討することになった。

公園は約6.3ha。津波で失われたまちの記憶を後世に伝えるメモリアルレリーフ、震災の記憶を語り継ぐ芝生の広場などから構成されている。



復興の「今」を見に来て!

第21回 Part2

南三陸町
宮城県

祈りの公園が完成 まちに回遊性が生まれ にぎわい創出に期待



2019年12月に先行して開園した「祈りの丘」。海拔20mの丘の頂には、犠牲者の名簿を納めた「名簿安置の碑」が置かれている。

商店街の隣接地には震災伝承施設や道の駅海辺のひろばが造られる計画で、「まちに回遊性生まれ、海を見ながら歩きたくなる、ウォーカブルなまちになるでしょう。そこからにぎわいが生まれることを期待しています」と、震災復興祈念公園事業を担当したURの野呂祐介は語る。

造られ、海を見渡すその頂には、犠牲になった町民の名簿を安置する石碑が設置されている。震災を学ぶ修学旅行生や地元の人々が訪れ、静かに手を合わせる姿が見られるという。

一足早く復興した「南三陸さん商店街」から、新しくなった中橋を渡り、この公園へとつながる動線が生まれた。中橋は世界的な建築家・隈研吾さんのデザイン。震災前にあった木造橋を思い起こさせる木製のダブルデッキの太鼓橋で、祈りの空間につながる聖なる橋に仕上がっている。

南三陸町最後の事業 今後の復興に期待

URは震災直後から南三陸町の要請を受け、町とともに志津川地区で復興事業全体を推進してきた。計画から工事まで、包括的に整備を行い、これまでに手掛けた災害公営住宅5地区18棟では、すでに被災した人々の新しい暮らしが始まっている。URにとって志津川地区での最後の復興事業が、この震災復興祈念公園だった。

「工事にはスピードが求められるなか、公園の建設と同時に、隣接する国道の迂回工事や県道、中橋、河川などの整備を並行して進めなければならず、その調整が難しかったですね」と野呂は振り返る。

関係機関が毎月集まって、情報共有しながら綿密に工程を調整。互いが納得できる着地点を見いだし、ときには仲間として協力しながらスピーディーに事業を進めた。「私はアンカーとして3年間担当しましたが、前任者たちの復興への熱い思いや、培ってきた関係機関との信頼関係のおかげで、期日通りに公園を開園することができました。ほっとしています」と野呂は話す。

「URが手掛ける工事はこれで終了しますが、復興はまだ終わっていません。今年は震災から10年の節目。節目というところ、復興にも区切りがついたととらえられがちですが、この地にいると、復興には節目はなく、日々続いていると感じます。私はこの地を離れても、これからの町の発展を見守ってきたい。そして、たくさんの人々にこの地を訪れてほしいと願っています」

中橋の手前には、2017年に完成した復興商店街「南三陸さん商店街」がある。志津川の海の幸が味わえる飲食店やショップが並び、ランチ時には名物の「キラキラ丼」目当ての行列もできる。



震災復興祈念公園全体開園式と中橋開通式が、平沢勝栄復興大臣ら多数の来賓を迎え、2020年10月12日に行われた。挨拶をする佐藤町長。

犠牲者を追悼する 祈りの場が完成

式典で佐藤 仁町長は「まず住宅再建、生業の再建を最優先で進めてきました。9年7カ月を経て、やっと亡くなった方々に手を合わせる場所をつくることができました」と感慨深い表情で語った。

震 災前、志津川地区を流れる八幡川に架かる中橋では、のんびりと釣り糸を垂らすまちの人の姿がよく見られたという。中橋を渡ると南三陸町役場があり、周辺には役場の人たち行きつけの飲食店も並んでいた。中橋周辺は南三陸町の中心市街地としてにぎわっていた場所だ。

震災から9年7カ月たった2020（令和2）年10月12日、津波で大きな被害を受けたこの一帯に、「南三陸町震災復興祈念公園」と、公園につながる橋「中橋」が完成。記念式典が行われた。

「ここは『追悼・継承・感謝』として未来を想像する協働の場」。犠牲者を悼み、震災の記憶と教訓を風化させることなく次代につなぎ、支援してくださった皆さまへの感謝と、これからの未来を想像する場にしたのです」

43名の犠牲者を出した旧防災対策庁舎は令和13年までは県有化され、震災遺構としての保存の是非を検討することになっており、その前には献花台が設けられている。その奥には円錐状の祈りの丘が



あいにくの天候のなか、中橋の渡り初め、テープカットが行われた。

素敵に飾る
インテリア
グリーン
vol. 5

日差しに合わせて移動できる
プランタースタンド

文・写真 貝賀あゆみ

おうち時間が増えたこともあり、最近ますます観葉植物が人気です。一口に観葉植物といってもパキラやガジュマル、シマトネリコのように日差しを好むものもあれば、



冬の夜にはこんなキャンドルがおすすめ。LEDキャンドルにユーカリやモミの葉をぐりりと巻いて飾ります。

シダなど強い日差しが苦手なものもあります。購入した鉢植えに付いている「育て方の説明」で確認しておきましょう。

日差しが部屋の奥まで届くようになる冬。日当たりを好む植物は、日差しの動きに合わせて部屋の中を移動させてあげたいところです。そんなときは軽いプランタースタンドがあると便利。写真のプランタースタンドは籐製で、上段には日差しを好む植物を置き、下の段には直射日光が苦手な植物を置いて日差しを防ぐこともできます。

プランタースタンドは水やりの際も重宝します。受け皿から水がこぼれたりして室内での水やりは案外面倒。私は毎日の霧吹きとは別に、週に1度キッチンのシンクでたっぷり水をやっていますが、その際も鉢をまとめて運べるので便利。プランタースタンド、おすすめです。



鉢植えをまとめて飾れるプランタースタンド。写真はイケアのもの。籐製で軽い。

かがあゆみ
フォトスタイリスト。読者数12万人をこえるアメブロ公式ブログ「インテリアと暮らしのヒント」メンバー。暮らしを楽しむアイデアを自身のブログや雑誌等でも発信している。https://ameblo.jp/rogstyle/

防災、待ったなし! 5

正しく使って命を守る!
「緊急地震速報」のキホン

文・写真 高荷智也 (ソナエワークス代表)

不意打ちで発生する大地震を、事前察知できる唯一の手段が「緊急地震速報」。スマホやテレビから突然鳴り響く音は恐ろしいですが、正しく活用して身を守りましょう。あらためて基本の確認です。



携帯・スマホで正しく活用するポイントと
鳴らない場合の理由

- 受信設定を「ON」にする
docomoは「エリアメール」、その他のキャリアは「緊急速報メール」という名称の機能で提供されます。受信設定をオンにしましょう。
- 携帯電波(3G・4G・LTEなど)を拾う
スマホの場合は携帯電波を拾っていないと速報が鳴りません。Wi-Fiで受信したい場合は「Yahoo! 防災速報」などのアプリを入れましょう。
- 想定震度が小さい場合
最寄り基地局の想定震度が「3」以下の場合、速報は鳴りません。この場合は揺れも小さいので問題はありません。ただし津波が生じる恐れもあるため、アプリなどで災害情報を得られるようにしましょう。

緊急地震速報が鳴ったらどうする?

大地震前に速報が鳴った場合、即座に「身を守る行動」を取りましょう。自宅の場合は、事前に家具転倒や荷物の落下がない「安全ゾーン」を作っておき、揺れる前にそこへ移動。身を低くし、クッションなどで頭を守ります。誤報だった場合は、良い訓練になったと喜ぶたいもの。その姿勢が命を守るために重要です。

種類と鳴る条件

緊急地震速報の音には3つの種類があります。テレビやラジオで鳴る「NHKのチャイム音」、携帯やスマホで鳴る「ブザー音」、アプリやシステムで使われる「REICサイン音」です。音は異なりますが、全て気象庁の情報を元に配信されています。原則としては、最大震度「5弱」以上の揺れが想定される地震発生時に、震度「4」以上が想定される地域に向けて速報が配信されます。

たかにともや
「備え・防災は日本のライフスタイル」をテーマに、自身が運営するWebサイト、各種メディアやセミナーを通じて防災を解説するフリーのアドバイザー。
「備える.jp」 https://sonaeru.jp



材料(2人分)

- みりん.....100cc
- しょうゆ.....大さじ5
- 砂糖.....小さじ1
- だし汁(かつおだし).....800cc
- 片栗粉.....大さじ1
- 水.....大さじ1
- しょうが(すりおろし).....2片分
- ごぼう.....60g
- にんじん.....40g
- 天ぷら粉.....大さじ2
- 水.....大さじ2
- サラダ油.....200cc
- ごま油.....大さじ1
- そば.....2人分
- 長ねぎ.....適量

揚げ油に食材を入れたあと、箸でしばらくおさえておくと、野菜が散らばらずにまとまる。

作り方

- 片栗粉と水を混ぜ合わせておく。
- 小鍋にみりんを入れ、中火にかけて煮詰める。水分量が2/3量になったら、しょうゆ、砂糖を加える。砂糖が溶けたら、だし汁を加える。沸いてきたら①を加えてとろみをつけ、しょうがを加えてひと煮立ちさせる。
- ごぼう、にんじんは5cm長さの細いせん切りにする。ごぼうは水にさらして水気を切る。野菜をボウルに入れ、天ぷら粉、水を加えて混ぜ合わせる。
- 揚げ鍋にサラダ油、ごま油を合わせて180℃に熱し、③を4等分してまとめて揚げる。カリッとしたら取り出し、油を切る。



栗原
心平の
オトコロめし 5
休日、頑張ってる家族のために料理する! そんなパパへの応援レシピ!

根菜かき揚げのしょうがそば

寒さが厳しい季節におすすめの、しょうがの効いた、とろみのある汁で体はホカホカ。根菜の風味豊かなかき揚げを添えることで、ご馳走に。



くりはらしんぺい
1978年生まれ。料理家、「ゆとりの空間」代表取締役社長。料理番組「男子ごはん」(テレビ東京系列)に出演中。10月に新刊「おいしい酒肴(おつまみ)は白飯にも合う。」(平凡社)を発売。30分以内に作れる「おつまみレシピ」などを紹介するYouTubeチャンネル「栗原心平ごちそうさまチャンネル」も人気。
http://instagram.com/shimpei_kurihara

パパのごほうび乾杯

そばといえば日本酒。かき揚げやそばを食べながら熱燗を、あるいはお酒を飲んだあとに、そばで締めくくるとおいしい。



TOPICS 3 大阪市芝田のまちづくり拠点「UMESHIBA BASE by UR」から魅力を発信

大阪の中心、阪急大阪梅田駅とJR大阪駅、それに「グランフロント大阪」に囲まれたまちが大阪市北区芝田地区です。URは学校法人上田学園と連携して、昨年11月、芝田地区の将来的なまちづくりを検討する拠点「UMESHIBA BASE by UR」を開設しました。

場所はURが昨年3月に取得した旧上田学園南館1階。大阪総合デザイン専門学校の学生の提案で、空間をリノベーション。ここで学生たちの制作物の展示や絵画などの販売も行う一方、建物全体を地域に開かれた空間として、地域の関係者と連携してプロデュースしていく予定です。昨年のオープン時には、芝田2丁目に屋台ストリートも出現しました。まちの魅力づくりの拠点として、今後もさまざまな活動を展開していきます。

大阪の中心地、芝田地区に誕生した「UMESHIBA BASE by UR」。



オープン時には芝田2丁目地区に「うめしば屋台ストリート」を展開(右)。上田学園の上田女子服飾専門学校(上)の学生たちのストリートファッションショーも開催しました(上)。



TOPICS 4 MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト ワークスペース付きプラン誕生



団地の良さを見直し、これまでにない暮らし方を提案する「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」。その新プランが1月に誕生しました。テレワークが広がるなか、大型住戸を利用したワークスペース付きのプランです。

国立富士見台団地(東京都国立市)の住戸では、南面バルコニーの先に増築されていた一室を「離れ」とし、落ち着いてテレワークができる部屋にリノベーション。このスペースは日当たりがよく、屋外で仕事をしているような気分にも。仕事以外でも室内キャンプなどに活用できます。また、窓がない部屋をキッチンにし、壁を撤去することでダイニングへの動線を確保。キッチン横にある広いユーティリティは室内干しスペースとしても利用可能。仕事も家事もはかどる新プランです。



TOPICS 1 福岡・天神のど真ん中にイノベーションを生む「場」 「URBANG TABLE」がオープン!

昨年12月、福岡市の都心部、その中心に位置する天神に、「まちづくりは人のつながりづくり」をコンセプトにした新たな情報発信・交流施設「URBANG TABLE (アーバン テーブル)」がオープンしました。

まちづくりに興味のある人々を集めて交流を促進し、イノベーションを生む「場」を提供したいとURが企画しました。毎月第3水曜には「福岡テンジン大学」と連携し、トークイベントを開催する予定です。テーマは「福岡の未来」「まちづくり」。多彩な分野のゲストを招いて参加者同士の交流をはかっていきます。福岡で人気のカフェ「REC COFFEE」も出店。フラットと立ち寄りたくなる天神の新しいスポットとして期待されています。

右/昨年12月16日には、「[都心]のあり方を考える」をテーマに、松岡恭子氏と深町健二郎氏によるトークイベントを開催。



下・右下/内部には木質のユニット家具と観葉植物を配した「URBANG TABLE」。「REC COFFEE」のテイクアウト専門店の出店も話題に。



TOPICS 2 家事ラク&在宅ワークに対応 光が丘パークタウンにリノベーション住戸登場



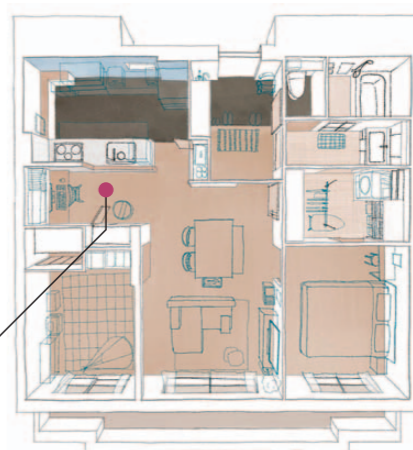
新たな生活様式に対応可能なリノベーション住戸。キッチンの近くにワークスペースを配置し、効率的に家事が進むように動線やコンセントや水栓の位置にも配慮した。



新型コロナウイルス感染症の影響などで働き方が多様化し、住まいに新たなニーズが生まれています。

そんな時代に対応するリノベーション住戸が、光が丘パークタウン 一ちょう通り八番街(東京都練馬区)に完成しました。

この住戸では、在宅ワークや子どもの勉強スペースに使えるよう、キッチンの近くにワークスペースを設置。洗濯室と



収納スペースを一体化して洗濯の動線をほぼゼロにするなど、家事効率もアップ。時短家電を活用できるよう、コンセントや水栓の位置に配慮しています。

共働きや在宅ワークに対応したこの新しい住まいは、WEBでご覧いただけます。

UR都市機構からのお知らせ

NEWS

国立新美術館で「佐藤可士和展」を開催

日本を代表するクリエイティブディレクターであり、URが進める「団地の未来プロジェクト」のプロジェクトディレクターも務める佐藤可士和さん。多種多様な分野で革新的な取り組みを続ける可士和さんの約30年にわたる活動の軌跡を多角的に紹介する大規模な展覧会が、東京港区の国立新美術館で開催されます。可士和さん自身がキュレーションした会場での展示も注目を集めています。会期は2月3日から5月10日まで。URは本展覧会を後援しています。



●展覧会HP kashiwasato2020.com Instagram ▶ @kashiwasato2020
●国立新美術館HP <https://www.nact.jp> Twitter ▶ @kashiwasato2020
お問い合わせ 03-5777-8600 (ハローダイヤル) Facebook ▶ www.facebook.com/kashiwasato2020

EVENT

横浜の北仲通地区で「横浜北仲フェス」が開催されました

JRの桜木町駅と、みなとみらい線の馬車道駅に近接した北仲通地区は、横浜の歴史と未来、暮らしとにぎわいが交錯する魅力的なまちを目指して、公民連携による再整備が進められています。URが本社を置くこの地区では、昨年、分譲マンションや商業・宿泊施設が入る「ザ・タワー横浜北仲」および商業・文化施設「北仲ブリック&ホワイト」が完成し、横浜市新市庁舎も供用を開始しました。昨年11月21日(土)、22日(日)に、横浜市、UR、

(一社)横浜北仲エリアマネジメントなど行政や地元団体の共催で「横浜北仲フェス」が開催されました。マルシェをはじめ、地区内スタンプラリーにはURも参加し、北仲地区全体に一体感を生み出す楽しいイベントになりました。

「横浜北仲フェス」の催し物のひとつとして「横浜北仲マルシェ」が馬車道駅直結の商業施設「北仲ブリック&ホワイト」の1階、歴史広場を中心に開催された。



From Editors

今回の特集では、多摩ニュータウンでのさまざまな取り組みをご紹介しました。最初に完成した諏訪・永山団地への入居が始まってから50年。イベントの取材は雨の日もありましたが、悪天候にもかかわらず、お子さまから高齢の方まで多くの方で賑わっていました。多摩ニュータウンの団地が多様な世代の方々から愛され続けていることを改めて感じるとともに、団地の垣根を超えたイベントの開催など、地元の方々のエネルギーもひしひしと感じました。新型コロナウイルスの影響で、住まい方が変わりつつある今、郊外のニュータウンに目を向けてみてはいかがでしょうか。(UR都市機構・広報担当YS)

次号のお知らせ

「UR PRESS」65号は2021年4月末発行予定です。

「UR PRESS」オンライン版もお楽しみください!

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。紙面にはない巻頭インタビューの動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS で 検索

<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress64/index.html>



YouTubeでもさまざまな動画がご覧いただけます

UR都市機構の公式YouTubeでは、UR賃貸住宅、都市再生、震災復興など、URのさまざまな事業や情報を動画でお伝えしています。「UR PRESS」オンライン版でこれまでに紹介した動画や、テレビCMなどもアップしています。ぜひご視聴ください。

<https://www.youtube.com/user/URTOSHIKIKO/>



プレゼント付きクロスワードパズル

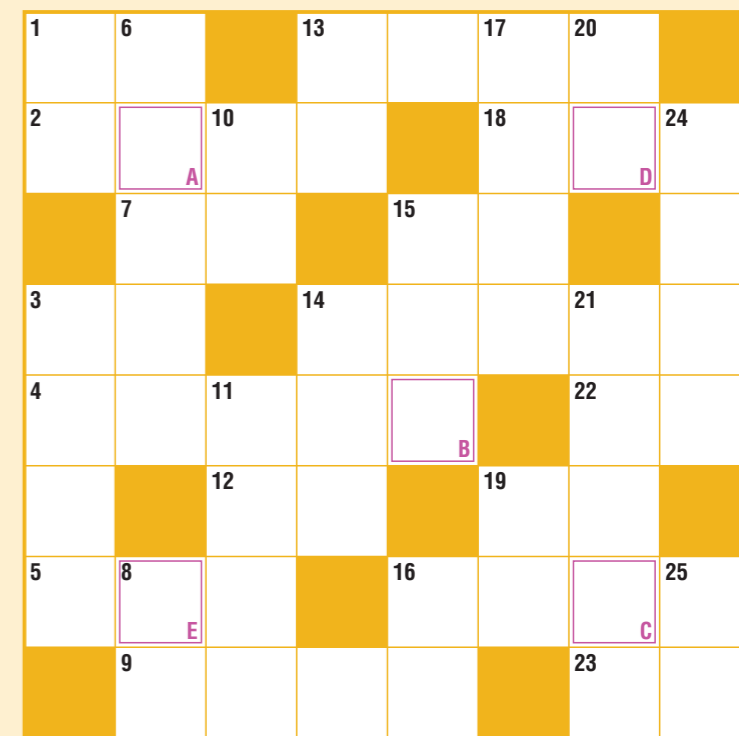
パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- きれいな海や晴れ上がった空の色と言え
- 首を寒気から守ります
- カップルで——ショットの写真を撮った
- レシピには材料とともに書いてあります
- よその場所に建て直すこと
- ボウリングで倒すもの
- おせち料理にも入れる、ニシンのタマゴ
- ぼく、今年は42歳の——年なんです
- アルバムを見て、昔の——にひたった
- 多数決、これだけとれば意見が通る
- ネギが——で売られている
- よく玄関にある、履き物を入れるもの
- でウワサになっている
- 漢字の左側にある部首
- 今年50歳になる——ニュータウン。東京都の稲城市・多摩市・八王子市・町田市にまたがっています
- 縫い針の穴に通すもの

タテのカギ

- 海に潜って貝やウニを捕る
- 戸が開かないように——棒をした
- 満員電車を避ける——通勤をしています
- この井戸で——水をくみ上げています
- 君子——胡蝶——鈴——
- 要所をシンプルに整理した図
- 酸素の意味で使うアルファベット
- 値段のことで
- 野菜や稲を育てるところ
- お酒が飲めません
- 星は、夕方の空で真っ先に輝き出します
- 柿とかナスの、枝にくっついていたりところにあるもの
- 根も葉もないウワサ
- いつでも動けるように準備完了
- 背が高くなった気分を味わえる、2本で一組の遊び道具
- 日本に昔からある弦楽器のひとつ



プレゼント

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT 1

エアーカーおる「ダキシメテフタバ」3名様

福島県双葉町が岐阜のメーカーと共同で開発したタオル「ダキシメテフタバ」。特殊な燃糸を使い、抜群の吸水性と肌当たりの柔らかさを実現。軽くて乾きやすいフェイスタオルです。



PRESENT 2

本「ゼロは最強」2名様

本誌のスペシャルインタビューにご登場いただいたTAKAHIROさんの著作。アーティストの才能を次々と開花させる注目の振付家が人生やビジネスについて綴った一冊。



PRESENT 3

白雪ふきん 3名様

古くから薄織物の産地である奈良で生まれたふきん。さらりとした使用感に加え、吸水性と汚れ落ちのよさも魅力。奈良限定販売柄をセットで。



PRESENT 4

大和茶 3名様

本誌「URのまち あのみち・このまち・歩いてみよう!」で紹介している奈良の老舗、田村青園茶舗の大和茶。香ばしいほうじ茶と、煎茶の人気の品をセットで。



●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

※応募はがきに記載のQRコードからもご応募いただけます。

●応募締め切り

2021年4月30日(当日消印有効)
当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お酒のご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。



PRESENT 5

多摩の地酒「原峰のいずみ」3名様

原料、醸造ともに東京・多摩にこだわった純米吟醸酒。香り豊かでさわやかな飲み口が特徴、多摩地域でしか入手できない逸品です。720ml。

63号の解答

アイケブククロ

